

仙台市文化財調査報告書289集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書

2005年1月

仙台市教育委員会
仙台市交通局

仙台市文化財調査報告書289集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書

2005年1月

仙台市教育委員会
仙台市交通局

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろから多大な御協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めるため、軌道系交通機関を基軸としたまとまりのある集約型の市街地形成への転換を図っており、その主要な施策として、高速鉄道東西線プロジェクトを進めております。今回の発掘調査はそれに伴う確認・試掘調査です。調査は計画路線のなかで川内地区を中心に行われ、近世を主として貴重な成果が得られました。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。また、文化財の保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。

その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、御協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成 17 年 1 月

仙台市教育委員会

教育長 阿部 芳吉

例 言

1. 本書は、高速鉄道東西線建設事業に伴い実施された埋蔵文化財の確認・試掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社第三開発が仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導監督のもとに行った。
3. 本書の作成・編集は、仙台市教育委員会文化財課 斎野裕彦、株式会社第三開発 益谷正信・北原正範が行った。
4. 本書の執筆は、斎野裕彦の責任と指導のもとに、株式会社第三開発が行った。
株式会社第三開発の分担
・ I - 2、III、V~VII……………北原正範
・ II、IV、VIII……………益谷正信
5. 調査および報告書作成にあたり、下記デジタル機器を使用し、CD入稿とした。
測量・遺構計測 「リプログラフ」(株式会社こうそく)、遺構図版作成・遺物実測図作成・編集「アドビ CS」(adobe社)「エクセル」(MS社)、ApplePowerMacG5
6. 本調査の実施および報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、また、さまざまなご協力を賜った。記して敬意を表す次第である(敬称略順不同)。
松本秀明(東北大学大学院理学研究科) 藤沢 敦(東北大学埋蔵文化財調査研究センター)
佐藤 洋(仙台市博物館) 渋江芳浩(日本考古学協会) 黒尾和久(日本考古学協会)
秋岡礼子(特定非営利活動法人 歴史・環境・まちづくり) 東北大学
7. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書の土色は、新版標準土色帳(農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 版)に準拠している。
2. 図中の座標値は、日本測地系座標を使用した。
3. 本文図版等で使用した方位は、すべて真北で統一してある。
4. 標高値は、海拔高度(T.P)を示している。
5. 遺構図は、原則として 1/80 掲載とした。その他の図面については、各図のスケールを参照されたい。
6. 遺構名の略称として SD: 溝跡・溝状遺構 SE: 井戸 SK: 土坑 P: ビット SX: 性格不明遺構を使用した。
7. 遺構図において、□は攪乱の範囲、「S」は礎を示している。
8. 遺物の登録・整理および報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
A: 縄文土器 F: 丸瓦・軒丸瓦 H: その他の瓦 I: 陶器・石器他 J: 磁器 K: 石器
9. 遺物実測図は原則として 1/3 で、石器は 2/3 で掲載した。
10. 遺物実測図において、外形線・中心線・区画線は実線で、破線は破線で、軸葉など表面装飾の境界線は一点鎖線(施釉部・無釉部の境界)ないし二点鎖線(複数種の軸葉間の境界)で表した。中心線が一点鎖線のものは、図上復元実測図である。破損部は、推定復元状態を実線で表した。

本文目次

I. 調査の概要	1
1 調査の経緯	1
2 調査要項	2
II. 立地と歴史的環境	2
1 A区	2
2 B区	2
3 C区	3
4 D区	3
III. 調査の方法と経過	4
1 A区	4
2 B区	4
3 C区	5
4 D区	5
IV. A区の調査成果	6
1 調査区の設定および基本層序	6
2 検出された遺構と遺物	7
3 まとめ	18
V. B区の調査成果	19
1 調査区の設定および基本層序	19
2 検出された遺構と遺物	20
3 まとめ	24
VI. C区の調査成果	25
1 調査区の設定および基本層序	25
2 検出された遺構と遺物	26
3 まとめ	33
VII. D区の調査成果	34
1 調査区の設定および基本層序	34
2 検出された遺構と遺物	35
3 まとめ	42
VIII. 総括	43

挿 図 目 次

第 1 図 調査区位置図	1	第 21 図 BⅠK No.5 トレンチ平面図・柱状図	23
第 2 図 絵図・占地図における調査区的位置	3	第 22 図 BⅠK No.6 トレンチ平面図・柱状図	24
第 3 図 A区トレンチ配置図・基本層序柱状図	6	第 23 図 B区全体平面図	24
第 4 図 A区 No.1 トレンチ平面図・断面図・柱状図	8	第 24 図 C区トレンチ配置図・基本層序柱状図	26
第 5 図 A区 No.1 トレンチ出土遺物 (1)	8	第 25 図 C区 No.1 トレンチ平面図・柱状図	27
第 6 図 A区 No.1 トレンチ出土遺物 (2)	9	第 26 図 CⅠK No.1 トレンチ出土遺物	27
第 7 図 AⅠK No.2 トレンチ平面図・柱状図	10	第 27 図 C区 No.2 トレンチ平面図・ 柱状図・P1 断面図	28
第 8 図 A区 No.3 トレンチ平面図・柱状図	11	第 28 図 CⅠK No.3 トレンチ平面図・柱状図	29
第 9 図 A区 No.3 トレンチ出土遺物	12	第 29 図 CⅠK No.4 トレンチ平面図・柱状図	30
第 10 図 A区 No.4 トレンチ平面図・柱状図	13	第 30 図 C区 No.5 トレンチ平面図・北壁断面図	31
第 11 図 AⅠK No.4 トレンチ出土遺物	14	第 31 図 C区 No.5 トレンチ出土遺物	32
第 12 図 A区 No.5 トレンチ平面図・断面図	15	第 32 図 C区全体平面図	33
第 13 図 A区 No.5 トレンチ出土遺物	16	第 33 図 D区調査区配置図	34
第 14 図 A区 No.6 トレンチ平面図・柱状図	17	第 34 図 DⅠK 平面図・北壁断面図・東西ベルト断面図	36
第 15 図 AⅠK 全体平面図	18	第 35 図 DⅠK SX2・SX3・P1～3 断面図	37
第 16 図 B区トレンチ配置図・基本層序柱状図	19	第 36 図 D区出土遺物 (1)	38
第 17 図 B区 No.1 トレンチ平面図・柱状略図	20	第 37 図 D区出土遺物 (2)	39
第 18 図 B区 No.2 トレンチ平面図・柱状図	21	第 38 図 D区出土遺物 (3)	40
第 19 図 BⅠK No.3 トレンチ平面図・柱状図	21	第 39 図 DⅠK 全体平面図	42
第 20 図 B区 No.4 トレンチ平面図・柱状図	22		

表 目 次

表 1 調査工程表 (AⅠK・B区・C区・D区)	5
表 2 A区出土遺物集計表	18
表 3 BⅠK出土遺物集計表	24
表 4 C区出土遺物集計表	33
表 5 D区出土遺物集計表	42
表 6 確認遺構数集計表	43

写真図版目次

図版 1 A区 (1)	47
図版 2 A区 (2)	48
図版 3 AⅠK (3)・B区 (1)	49
図版 4 B区 (2)	50
図版 5 B区 (3)・CⅠK (1)	51
図版 6 CⅠK (2)	52
図版 7 C区 (3)・D区 (1)	53
図版 8 D区 (2)	54
図版 9 A区出土遺物	55
図版 10 AⅠK・C区・D区出土遺物	56
図版 11 DⅠK出土遺物	57

2 調査要項

遺 跡 名：仙台城跡（宮城県遺跡番号第 01033 号、仙台市文化財登録番号 C - 501 号）

川内 A 遺跡（宮城県遺跡番号第 01558 号）他

所 在 地：宮城県仙台市青葉区川内・青葉山・桜ヶ岡公園地内

調 査 主 体：仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）

調 査 担 当：調査係主査 佐藤甲二

調査係主任 斎野裕彦

調 査 員 込谷正信（株式会社第三開発 発掘調査部）

調査補助員 北原正範（株式会社第三開発 発掘調査部）

調 査 面 積：448 m²

A 区（仮称国際センター駅部） 180 m²（今回の仙台城跡隣接地試掘調査結果を受けて平成 16 年 7 月「川内 A 遺跡」として遺跡登録）

B 区（扇坂トンネル部） 108 m²（仙台城跡隣接地試掘調査）

C 区（亀岡トンネル部） 90 m²（仙台城跡確認調査）

D 区（仮称西公園駅部隣接地） 70 m²

調 査 期 間：A 区 平成 16 年 6 月 14 日～平成 16 年 6 月 25 日

B 区 平成 16 年 8 月 24 日～平成 16 年 8 月 27 日

C 区 平成 16 年 8 月 18 日～平成 16 年 9 月 3 日

D 区 平成 16 年 9 月 6 日～平成 16 年 9 月 17 日

II. 立地と歴史的環境

調査対象となった仙台城跡及びその隣接地、川内 A 遺跡他は、仙台市街地の西方、青葉山麓、北と東を広瀬川、南を竜の口溪谷に囲まれた広瀬川中流域の河岸段丘面に立地している。河岸段丘は丘陵地帯から、青葉山段丘・仙台台ノ原段丘・仙台上町段丘・仙台中町段丘・仙台下町段丘の 5 面で形成され、広瀬川右岸の A 区は仙台下町段丘、B 区は仙台中町段丘相当面、C 区は仙台上町段丘面、広瀬川左岸の D 区は仙台中町段丘面に立地する。標高は約 40 m から 70 m である。

1 A 区

A 区は広瀬川中ノ瀬西側、川内地区を南北に分ける沢の北側、仙台城跡北東端部から北東へ 30 m の仙台下町段丘面に立地し、標高は約 40 m を測る。近年まで仙台商業高校グラウンドであったが、現在では駐車場等として利用されている。A 区は『奥州仙台城絵図』（第 2 図 - 1）において侍屋敷と記されており、二の丸北方武家屋敷地区内に位置している。『仙台城下絵図』、『安政補正改革仙府絵図』（第 2 図 - 2・3）では、御炭庫と記されている。また、明治以降では軍の施設が置かれ、大正、昭和にかけては兵器廠として利用された。第二次大戦後は米駐留軍の管轄となり、昭和 32 年に返還され現在に至っている。

2 B 区

B 区は仙台城跡北東端から北へ 20 m の仙台中町段丘相当面に立地し、標高は約 47 m を測る。現在、広く平坦な面は東北大学川内キャンパス内グラウンドとして利用されている。絵図によると（第 2 図 - 1・2）、調査区が位置する仙台城二の丸北側は沢と堀が存在し、これを境に、北方は大きく地割された武家屋敷地が描かれている。明治以降では、A 区と同じく軍施設が置かれた。

3 C区

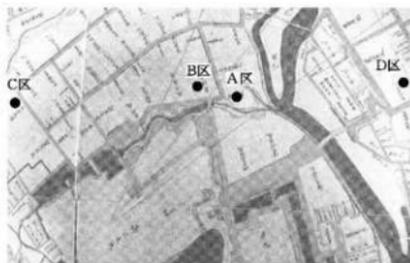
C区は仙台城跡北西端から南へ20mの仙台上町段丘面に立地し、仙台城跡の北端部に位置する。標高は約70mを測る。東に位置するB区との比高差は約20mを測り、500m程の距離で緩やかに傾斜しながら仙台中町段丘へ標高を下げる。現在は東北大学川内キャンパス構内の駐車場として利用されている。『仙台城下絵図』・『安政補正改革仙府絵図』（第2図-2・3）においては、江戸時代初頭より中期以降幕末まで、屋敷地として利用されていたと考えられる。明治以降ではA・B区と同じく軍施設が置かれ、昭和20年には仙台空襲により仙台城の全ての建物は焼失したといわれている。戦後は米駐留軍の管轄となり、返還される昭和32年以降東北大学川内キャンパスとなる。構内は1970年代以降多くの施設建設に伴い、主に東北大学理蔵文化財調査研究センターにより調査が行われている。

4 D区

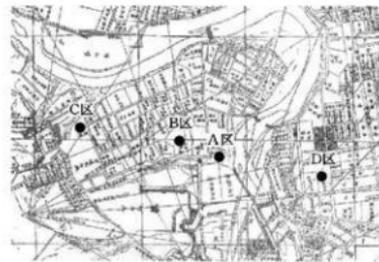
D区は仙台城跡から東へ300mの仙台中町段丘面に立地し、広瀬川に架かる大橋の北東側、桜ヶ岡公園地区内に位置する。標高は約43mを測る。D区は仙台城大手門に通じる主要な幹線道の近くに位置し、絵図においても武家屋敷と町屋敷の境界付近であったことが窺える。昭和初期には西公園ならびに公会堂として記されている（第2図-4）。現在は公園・グランドなどとして利用されている。



1. 『奥州仙台城絵図』（正保2・3年 1645・6）



2. 『仙台城下絵図』（天明6～寛政元年 1786～9）



3. 『安政補正改革仙府絵図』（安政3～6年 1856～9）



4. 『昭和十一年現在最新仙台全市図』

第2図 絵図・古地図における調査区の位置

Ⅲ．調査方法と経過

設定された調査区の表土層を重機により排土し、その後人力にて遺構確認を行った。今回は確認・試掘調査であり、一部を除いて遺構掘削は行わず、平・断面の土層堆積状況を観察し、計測・写真撮影を行い記録した。計測作業は調査対象箇所が広範囲にわたるため、D区を除いて調査グリッドの設定は行わず、路線敷センター杭の国家座標（日本測地系座標）をもとに電子測量用杭を適地に設けた。これらの杭を基準に光波測量器により調査区位置を設定し、全体平面図・遺構平面図・断面図実測ポイント・遺物出土位置の計測を行った。標高は指定された標高基準点よりレベル測定器にて移動を行い、上記測量用杭に標高を設定し、光波測量器による各計測ポイントに標高値を持たせデータ化した。検出された遺構名の略語に関しては凡例に表示した。遺構番号は各トレンチごとに検出順に通し番号で表記した。

出土遺物は出土年月日順に番号を付け取り上げ、登録した。D区は意標に沿った5mグリッドを設定（原点x=-2905、y=-193500をA1グリッド北西角とした）し、出土位置の特定が困難な遺物はグリッド別、層位別に番号を付け取り上げた。

計測されたデータは測量ソフトを用いデータ編集を行い、ドローソフトにより、断面図と合わせ国家座標上に図面化した。報告遺物は手実測とデジタル実測を併用し、実測図の作成を行った。

1 A区

A区の試掘調査は平成16年6月14日～6月25日に実施した（9日間）。

6月14日：基準点・水準点移動をし、調査区No.1～No.6トレンチを設定。仮設設置。

6月15日：No.1～No.4トレンチ重機掘削。

6月16日：No.5・No.6トレンチ重機掘削。No.1トレンチ遺構確認、平面写真撮影。

No.2トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影・作図。

6月17日：No.5・No.6トレンチを重機掘削。No.1トレンチ再度平面写真撮影。断面写真撮影・作図。

6月18日：No.3・No.4トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影。No.5トレンチ遺構確認、平・断面実測・作図。

No.6トレンチ遺構確認、平面実測・作図。

6月21日：No.1・No.5トレンチ再度重機掘削。平・断面写真撮影。

No.6トレンチ再度重機掘削、平・断面写真撮影、平面実測・作図。埋戻し。

6月22日：No.1・No.3～No.5トレンチ平・断面写真再撮影、断面実測・作図、平面実測・作図。

6月24日：No.2～No.4トレンチ埋め戻し。

6月25日：No.1トレンチ埋め戻し。No.5トレンチ埋め戻し。各トレンチの転圧および整地。仮設撤去。

2 B区

B区の試掘調査は平成16年8月24日～8月27日に実施した（4日間）。

8月24日：基準点・水準点移動をし、センターライン復元。調査区No.1～No.6トレンチを設定。仮設設置。

8月25日：No.1～No.6トレンチ重機掘削。No.1トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影、平面実測・断面略図実測・作図。No.1トレンチは、深度が2mを超えたため、危険につき埋め戻し。

8月26日：No.2～No.6トレンチ遺構確認。平・断面写真撮影。断面実測・作図、平面実測・作図。

8月27日：No.2～No.6トレンチを埋め戻し。各トレンチの転圧および整地。仮設撤去。

3 C区

C区の確認調査は平成16年8月18日～9月3日に実施した(12日間)。

- 8月18日：基準点・水準点移動をし、調査区No.1・No.2トレンチを設定。仮設設置。
- 8月19日：No.1・No.2トレンチ重機掘削。
- 8月20日：No.1・No.2トレンチ遺構確認、平面写真撮影。
- 8月23日：No.1・No.2トレンチ平・断面写真撮影、断面実測・作図、平面実測・作図。
- 8月24日：No.1・No.2トレンチ埋め戻し。各トレンチの転圧および整地。
- 8月25日：No.1・No.2トレンチ舗装復旧。仮設撤去。
- 8月27日：調査区No.3～No.5トレンチを設定。仮設設置。
- 8月30日：No.3・No.4トレンチ重機掘削。
- 8月31日：No.3・No.4トレンチ遺構確認、平・断面写真撮影。No.5トレンチ重機掘削、遺構確認。
- 9月1日：調査区No.3～No.5トレンチを設定。仮設設置。No.3トレンチを埋め戻し。
- 9月2日：No.4・No.5トレンチを埋め戻し。舗装復旧。
- 9月3日：仮設撤去。

4 D区

D区の試掘調査は平成16年9月6日～9月17日に実施した(10日間)。

- 9月6日：基準点・水準点移動をし、調査区を設定。仮設設置。
- 9月7日：調査区重機掘削。遺構確認。
- 9月8日：調査区重機掘削。遺構確認。確認写真撮影。遺構掘削。
- 9月9日：遺構確認。平面写真撮影。遺構掘削。
- 9月10日：遺構平・断面実測・作図。平・断面写真撮影。遺構掘削。
- 9月13日：遺構掘削。遺構平・断面写真撮影。断面実測・作図、平面実測・作図。
- 9月14日：遺構掘削。平・断面写真撮影。断面実測・作図、平面実測・作図。
- 9月15日：調査区平・断面写真撮影、壁断面実測・作図、平面実測・作図。
- 9月16日：調査区埋め戻し。転圧および整地。
- 9月17日：仮設撤去。復旧作業。

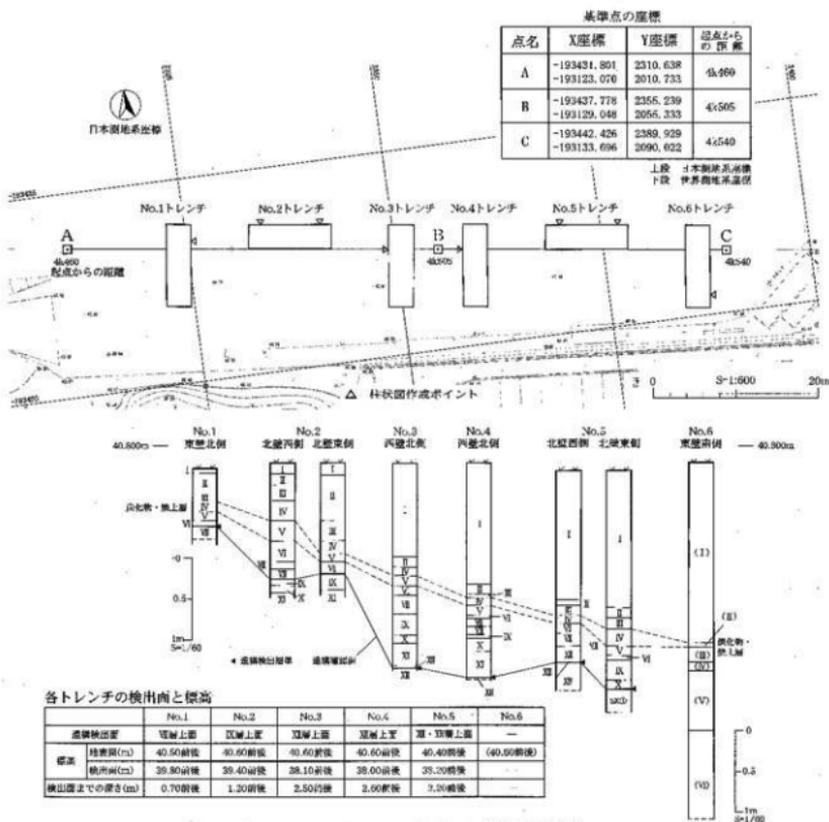
表1 調査工程表 (A区・B区・C区・D区)

作業内容	6月			7月			8月			9月		
	14	15	16	17	18	19	16	17	18	19	17	
調査事務所設置 器材搬入	■											
測量基準点設置	■											
表土重機排土	■	■	■									
遺構検出 検出遺構写真撮影	■	■	■									
検出遺構等測量	■	■	■									
調査区埋め戻し	■											
基礎整理	■	■	■									
器材搬出 調査事務所撤去												
各区の調査期間	A区			B区・C区						D区		

IV. A区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

路線敷センターラインに沿うように6箇所のトレンチを設け、西側よりNo.1からNo.6までの名称を付けた。路線敷の幅が16mということから、なるべく全体の状況を把握するため長軸を東西、南北方向にそれぞれ配置した。全て3×10mの長方形で設定したが、掘削深度はそれぞれで異なっている。延べ調査面積は180㎡である。掘削においては、近・現代の盛土層の堆積が厚く、砂礫層上面を確認するために深度が2mを越えるトレンチもあったため、安全上の理由から幅3mより広く掘削を行ってから段状に掘り進めた。A区の基本層序は第3図のように各トレンチごとに盛土および旧表上より、ローマ数字を用い層位を表記した。各トレンチ間の層位の対応関係は厚さ10cm程の炭化物・焼土主体の層を破線で、遺構確認面を実線で結び、遺構が検出された層準を◀で表記した。



第3図 A区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 検出された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第4～6図、図版1-2～5)

No.1 トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の断面・柱状図作成は、東壁と北壁で行った。盛土および旧表土を除去し、VI層上面で遺構確認を行ったが、南側と中央部に給排水管理股による攪乱を検出するのみであった。これを掘削する過程で北側に基本層VII層を確認した。そこでVI層を除去し、VII層上面にて遺構確認を行った。掘削深度は0.7mを測った。遺構は5基検出された。遺物は67点出土した。その内容は磁器22点、陶器15点、瓦17点、縄文土器9点、石器1点、鉄製品2点、ガラス1点である。

(1) SK1 土坑 (第4図、図版1-2・5)

調査区中央やや南よりに位置する。北側を攪乱され、南側はSX1を切る。東側は調査区外へ広がる。平面形は不整形で、上端の長軸で1.6m程である。遺物は確認面より石器(第6図-3、図版9-8)が出土した。

(2) SK2 土坑 (第4図、図版1-2)

SX1の西側に位置する。北側を攪乱され、西側はトレンチ北側まで広がるSX2に切られる。平面形は不整形で、上端の長軸で1m程である。遺物の出土はない。

(3) SX1 性格不明遺構 (第4図、図版1-2)

SX1は調査区南側に位置する。南側を攪乱され、北側をSK1に切られる。上端規模は1.5m以上で東側は調査区外へ広がる。遺物は埋土上部から縄文土器(第5図1～3、図版9-1)が出土した。第5図1は、深鉢の胴部であり地文が確認される。遺構の時期は縄文時代以降である。

(4) SX2 性格不明遺構 (第4図、図版1-2)

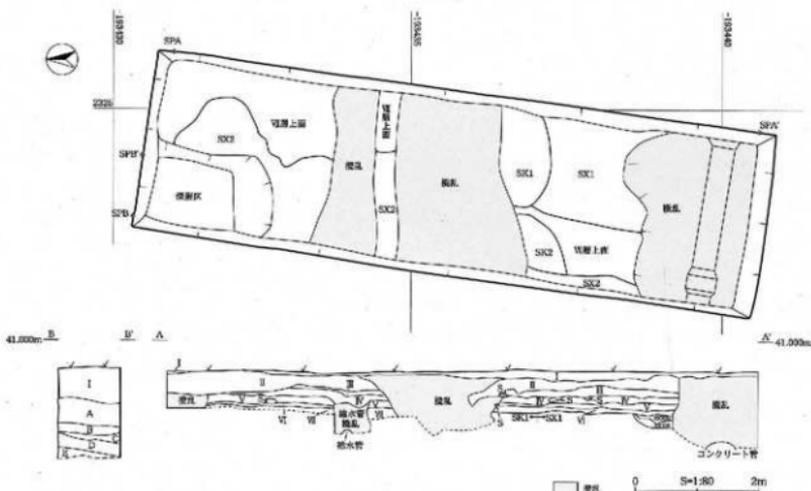
SX2は調査区西側に位置する。中央を攪乱され、SK2を切る。上端規模は8m以上で、西側は調査区外へ広がる。埋土は砂礫が主体である。北壁断面においてSX2埋土に対応する層は確認されていない。遺物の出土はない。

(5) SX3 性格不明遺構 (第4図、図版1-3)

SX3は東壁断面において確認された。平面形は不明である。埋土は2層でSX1を切る。遺物の出土はない。

(6) 遺構の検出面と時期

遺構は基本層VII層上面で4基、断面観察で1基検出した。遺構の変遷は新旧関係から2時期認められる。基本層VII層上面は出土遺物などから主に近世の遺構面と考えられるが⁹⁾、縄文時代の遺構が存在する可能性もある。遺構の検出状況からは、No.1 トレンチ周辺の遺構の密度は高いと推測される。



No.1トレンチ東壁基本層・遺構埋土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
I	7.5YR2/2	灰褐色	砂	なし	なし	溝土、グラウンド敷法層。
II	10YR22/4	暗褐色	暗褐色土	なし	ややあり	径1~3cmの円礫を多く含む、径2~3mmの炭化植物残渣を多く含む堆土層。
III	10YR23/4	暗褐色	暗褐色土	なし	あり	砂質シルト、炭分、炭化植物を少量含む。
IV	10YR23/1	暗褐色	炭化物	なし	ややあり	径3mm程度の砂礫を多く含む、炭化物が少量含む。
V	10YR23/4	暗褐色	暗褐色土	なし	あり	径1cm程度の丸石、炭化、炭化物が少量含む。
VI	10YR22/2	暗褐色	砂礫	なし	なし	径1~3cmの円礫が土中の付着層、炭化植物を少量含む。
VII	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径1~2mmの炭化植物と炭分を含む。
SK3	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径1~2mmの炭土炭化物が少量、径3~5mmの炭白色シルト層を少量含む。
SK2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径1~2mmの炭化物、炭分を含む、炭白色シルト層を微量、径5cm程度の円礫を含む。

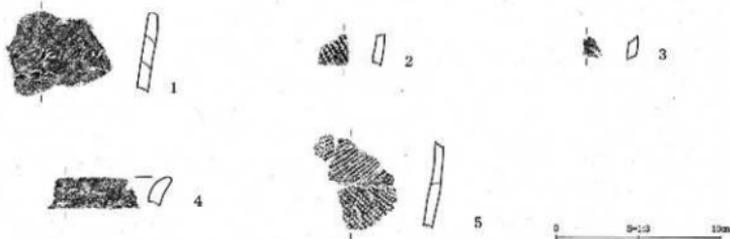
No.1トレンチ北壁柱状図基本層土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
I	7.5YR2/2	灰褐色	砂	なし	なし	グラウンド敷法層。
A	10YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	径5~15cmの円礫が主体、暗褐色シルトブロックを多く含む。(径1cm大)
B	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径1~2mmの炭分が少量含む。
C	10YR3/4	暗褐色	砂礫	なし	なし	炭分を多く含む、シルトを含む。
D	10YR2/1	黒色	砂礫	なし	なし	炭化物が主体、炭分を多く含む、シルトを含む。
E	10YR3/4	暗褐色	砂礫	なし	なし	径2~3mmの炭化物が主体、炭化炭分を少量含む。

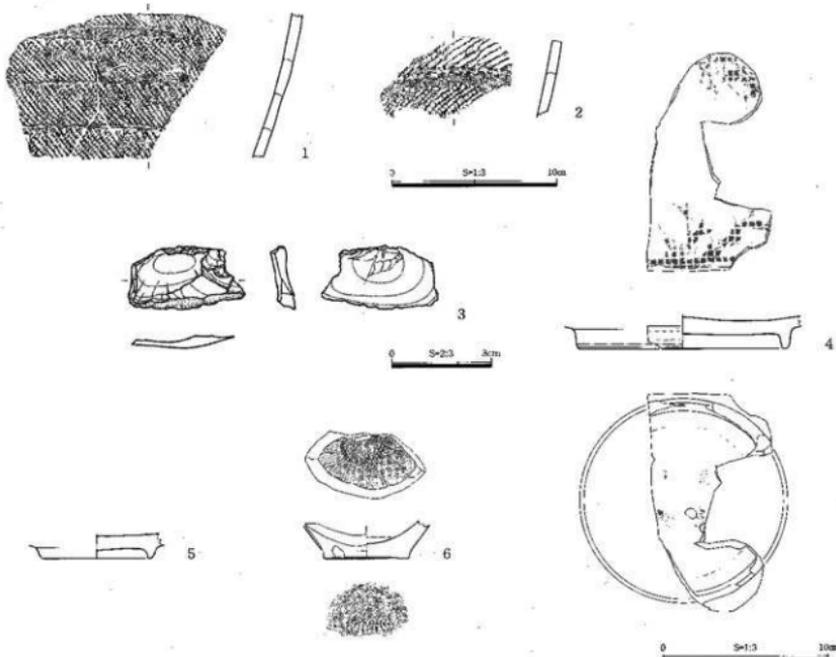
No.1トレンチ遺構埋土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
SK1	10YR4/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径1~2mmの炭分と炭化植物残渣、炭白色シルト層をやや多く含む。
SK2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径1~2mmの炭分と炭化植物残渣、炭白色シルト層をやや多く含む。
SK3	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土	あり	ややあり	径1~2mmの炭化物が少量含む、径3mmシルトブロック少量、炭分が少量を含む。
SK2	10YR3/4	暗褐色	砂礫	なし	なし	炭分を多く含む。

第4図 A区No.1トレンチ平面図・断面図・柱状図



第5図 A区No.1トレンチ出土遺物(1)



No.1 トレンチ出土 縄文土器観察表

器物番号 登録番号	図号番号	出土状況	種別	器種	器名	外面	内面	備考
図5-1 A-1	図5-1	SK1草履型	縄文土器	深鉢	縄文(絞網)	ミガキ		
図5-2 A-2	図5-2	SK1草履型	縄文土器	深鉢	絞網	ミガキ		3と同一個体
図5-3 A-3	図5-3	SK1草履型	縄文土器	深鉢	絞網	ミガキ		2と同一個体
図5-4 A-4	図5-4	(中央部破損)	縄文土器	深鉢	C絞網	ミガキ		
図5-5 A-5	図5-5	(中央部破損)	縄文土器	深鉢	絞網	L(RR+R)(LL)(他部)		縁部破砕。
図5-6 A-6	図5-6	(中央部破損)	縄文土器	深鉢	絞網	R(LLL)		ナデ・ミガキ
図5-7 A-7	図5-7	(中央部破損)	縄文土器	深鉢	絞網	L(Frr+R)(LLL)		ナデ・ミガキ

No.1 トレンチ出土 石器観察表

器物番号 登録番号	図号番号	出土状況	種別	器種	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	材質	備考
図5-3 K-1	図5-3	SK1出土	石器	網片	19	35.5	3.6	2.6	石灰	背面に縄線状の付着あり。

No.1 トレンチ出土 磁器・陶器観察表

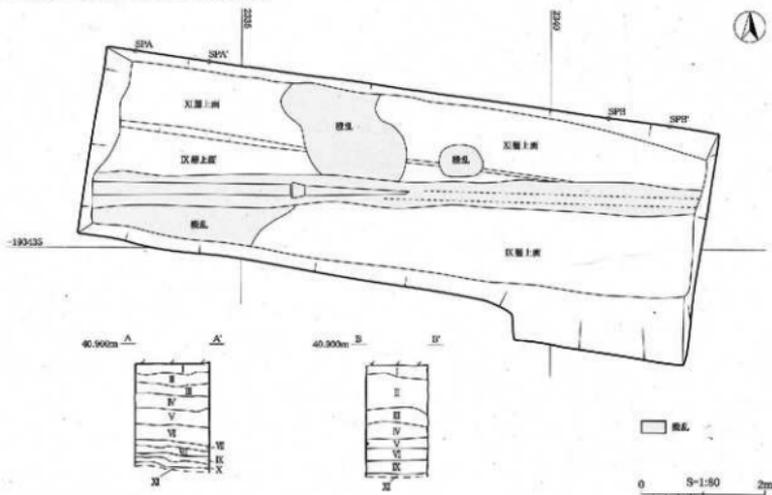
器物番号 登録番号	図号番号	器種	器名	形状特徴	外径 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	底径・脚径	口径・脚径	胎土	胎土内 胎土	胎土外 胎土	製 生 年 代	備 考
図5-4 J-1	図5-4	I~IV層	磁器	中央 丸形 底平 底ハリ	600	1100	314.4	口内 底平	口外 底平	白色	胎土 胎土	胎土 胎土	17°C 焼 成 1000年 代	* : 500年頃
図5-5 I-1	図5-5	V層	陶器	丸形 底平	600	660	33.7	口内 底平	口外 底平	白色	胎土 胎土	胎土 胎土	17°C 焼 成 1000年 代	
図5-6 I-2	図5-6	V層	陶器	丸形 底平	600	660	42.1	口内 底平	口外 底平	白色	胎土 胎土	胎土 胎土	17°C 焼 成 1000年 代	

第6図 A区 No.1 トレンチ出土遺物(2)

No.2 トレンチ (第7図、図版1-6・7)

No.2 トレンチは長軸を東西に設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の柱状図作成は北壁の2箇所で行った。煉瓦や建築廃材、コンクリート基礎の混入された盛土層が深さ約1.2mまで達し、No.1 トレンチと同じレベルでは自然堆積の礫層は確認されず、その下の焼土層と炭化物層を経て砂礫層へと続いている。この焼土層と炭化物層はNo.3～6 トレンチも見られ層序の基本層序となった。

遺構確認は区層で行い、その後北壁際でXI層上面でも行った。掘削深度は約1.3mを測った。遺構は検出されなかった。区層はNo.1 トレンチの遺構確認面に対応する層である。遺物は24点出土した。その内容は磁器8点、陶器3点、瓦12点、鉄製品1点である。



No.2 トレンチ基本層序土層柱状表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しきり	
I	7.4YR/2	灰褐色	砂	なし	なし	表土層、グラウンドの砂。
II	10YR5/4	緑褐色	塊状粘土	なし	なし	深さ2～3cmの間隙多く含む盛土層。
III	10YR5/4	緑褐色	塊状粘土	なし	なし	深さ1～2cmの小粒状を含む盛土層。
IV	10YR5/4	緑褐色	塊状粘土	ややあり	なし	砂りなレンガが混入された盛土層。
V	10YR3/1	灰褐色	塊状粘土	なし	ややあり	コンクリート片 (約5cm大) を含む焼土層、炭土炭化物層。
VI	10YR5/1	塊状色	塊状粘土	ややあり	なし	灰質を含む盛土層の盛土層。
VII	S1S/2	灰子リブ色	砂	なし	なし	厚1cmの炭化物。焼土層を伴行後1～2cm厚砂礫。
VIII	10YR2/1	灰褐色	炭化物	なし	なし	炭化物が主体の層。
IX	10YR4/4	黒色	砂礫	なし	あり	深さ3～5cmの巨礫が主体。
X	10YR3/4	暗褐色	砂	ややあり	ややあり	黄白色シルトブロックを多量に含む。
XI	10YR5/6	黄褐色	砂礫	なし	なし	灰白色ブロックを多量に含む。混入を多く含む。

第7図 A区No.2 トレンチ平面図・柱状図

No.3 トレンチ (第8図、図版1-8、図版2-1・2)

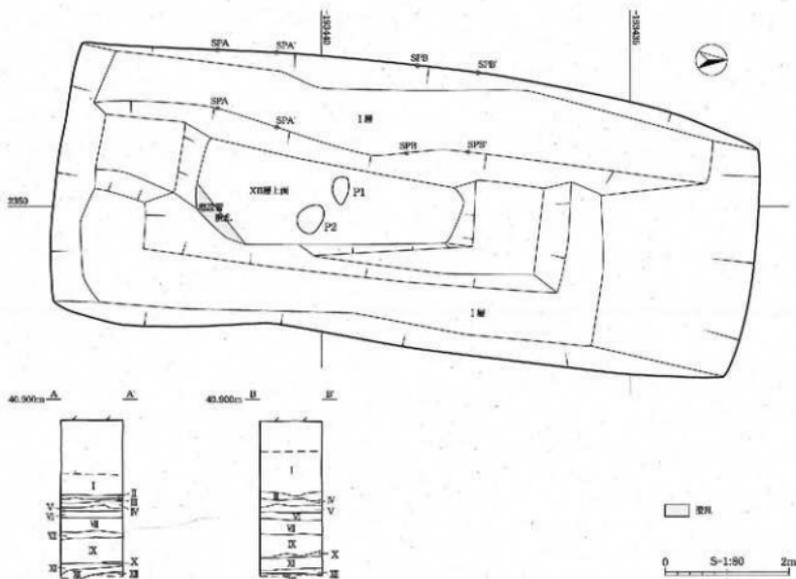
No.3 トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。掘削深度が2mを超えても盛土層を掘り抜くことができなかったため、トレンチ幅を拡張して掘削を行った。本トレンチにおいてもNo.2 トレンチと同様な炭化物・焼土層 (V層) が確認でき、X層までは近・現代の盛土層および建築基盤層などである。XI層からは自然堆積層である。遺構は基本層序層上面でビット2基を検出した。検出面の範囲は約1.4×4.2mで、深度は約2.5mを測った。遺物は53点出土した。その内容は磁器8点、陶器8点、瓦37点である。18世紀後葉～19世紀中葉の肥前系の碗・大塚相馬系の皿を含む近世の陶磁器 (第9図1・2) が、主に基本層から出土している。

(1) P1・2ピット (第8図, 図版1-8)

調査区中央で検出された。上端径は、共に0.5m程の不整形円形で、埋土は砂質シルトである。出土遺物はない。

(2) 遺構の検出面と時期

遺構は基本層Ⅷ層上面で2基検出した。Ⅷ層上面は、No.1～2トレンチの遺構確認面と対応する。遺構の検出面は1面で、時期は近世と考えられる。



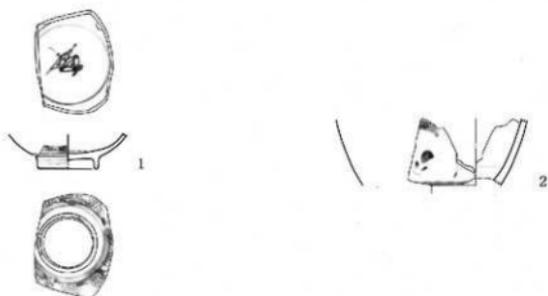
No.3トレンチ基本層土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しまり	
I	7.5Y5/2	灰褐色	砂	なし	なし	表土、グラウンド層底層。
II	10YR3/2	黒褐色	黒褐色土	ややあり	あり	厚1～3cmの炭化シルトブロック少量含む。炭分少量。
III	10YR3/3	褐色	褐色土	なし	あり	厚2～3cmの炭化シルト少量含む。
IV	10YR2/3	灰褐色	灰褐色土	なし	あり	厚4～5cmの炭化灰土層。厚2～5cmの炭分を多く含む。
V	10YR2/1	黒色	炭化物	ややあり	なし	厚1～2cmの炭化灰土層。厚2～3cmの炭分を多く含む。
VI						炭化した基礎コンクリート。
VII						コンクリート基礎層。厚20cmの閉鎖と砂が主体。
VIII	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土	ややあり	ややあり	厚4～5cmの炭化灰土。炭分を多量に含む。
IX	10YR3/4	暗褐色	粘土	ややあり	ややあり	厚2～5cmの閉鎖を多量に含む。炭化灰、炭分少量含む。
X	10YR2/1	黒色	炭化物	あり	ややあり	炭化灰土層の閉鎖。
XI	10YR5/8	黄褐色	砂質土	ややあり	ややあり	厚3cmのシルトブロックを多量に含む。5cmの炭化灰、炭分を多く含む。
XII	10YR5/6	褐色	砂質土	なし	なし	炭化シルトブロックを多量に含む。
XIII	10YR3/4	暗褐色	砂質土	なし	なし	厚2～4cmの閉鎖が主体。厚3～4cmの暗褐色シルトブロックを多量に含む。

No.3トレンチ遺構埋土土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しまり	
P1	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	灰白色ブロック厚2～5cmを多く含む。炭化灰少量含む。炭分を多く含む。
P2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	灰白色ブロック厚2～10cmを多く含む。炭化灰少量含む。炭分を多く含む。

第8図 A区No.3トレンチ平面図・柱状図



No.3 トレンチ出土 磁器・陶器観察表

発掘層号 図版番号	遺物番号	出土 状況	種別	器種	形状特徴	寸法 (mm)			重量 g	材質・表面	装 飾		粘土色 紋様	印・刺 など	製作地 調査年代	備 考	
						口径	器高	底径			動物/植体	文 様					製作時期
図版 1 1-2	図版9-12	1-古層	磁器	中碗	丸形 中心平坦	欠損	φ20	φ10	23.5	コクロ	染付 透かし	見地：厚金文 外：ハッ駄目	-	白色	-	群馬県 18C.後 ~19C.前	
図版 2 1-3	図版9-13	1-古層	磁器	大碗	広底平	欠損	φ41	欠損	8.5	コクロ	染付 透かし	内：厚金文 外：厚金文	-	白色	-	群馬県 18C.後 ~19C.中	「群馬県」
- 1-3	図版9-14	1-古層	陶器	小皿	-	欠損	欠損	欠損	24.8	コクロ	緑絵 天華	内：紅文 外：-	-	灰白色	-	大館 群馬県 ~19C.中	

第9図 A区No.3トレンチ出土遺物

No.4 トレンチ (第10図、図版2-3~5)

No.4 トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。No.4 トレンチはNo.3 トレンチに見られた基礎コンクリートの風化した層はないが、概ねNo.3 トレンチと類似した堆積の様相を呈している。掘削は段状に行い、基本層Ⅻ層上面で遺構確認を行った。検出面の範囲は約2×4.6mであり、掘削深度は約2.6mを測った。遺構はピット3基と不明遺構1基を検出した。

遺物は9点出土した。その内容は磁器6点、陶器3点、瓦2点、鉄製品2点である。主に基本層から、17世紀前半～中葉の肥前系の中碗を含む近世の磁器が出土している。

(1) P1・2・3ピット (第10図、図版2-5)

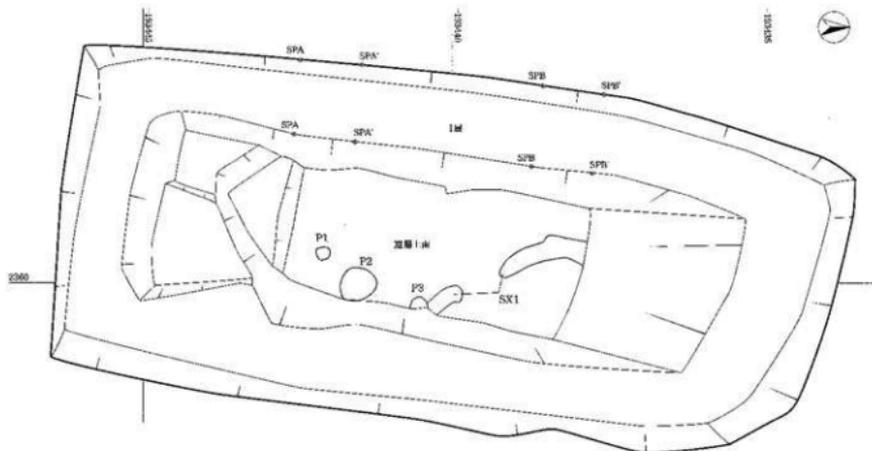
調査区東壁際で検出された。上端径は0.2～0.5m程で、円形である。P3はSX1を切り新しい。埋土はシルト質土を多く含む砂礫土である。出土遺物はない。

(2) SX1 性格不明遺構 (第10図、図版2-5)

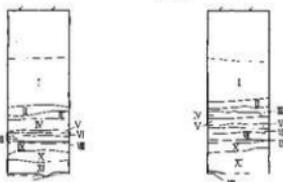
調査区北東のⅫ層上面で検出された。規模は幅0.2～0.3m長さ1.3m程の溝状で調査区外へ延びる。埋土は粘性のある砂礫土である。出土遺物はない。

(3) 遺構の検出面と時期

遺構は、基本層Ⅻ層上面で4基検出した。Ⅻ層上面はNo.1～3 トレンチの遺構確認面と対応する。遺構の変遷は新旧関係から2時期認められる。遺構の時期は出土遺物から、近世と考えられる。



40.900m A Δ 40.900m B Δ



0 5-1:80 2m

No.4トレンチ基本層土層記表

層位	土色		土質	性状		備 考
	土色	土色		粘性	しまり	
I	7.5Y5/2	灰褐色	砂	なし	なし	青土、グラウンド掘削用土。
II	10YR5/1	黒褐色	黒褐色土	なし	ややあり	径2~3mmの炭化物を多く含む。層1層裏に含む。
III	10YR5/1	黒褐色	炭化物	なし	なし	径2~3mmの炭化物を多量に含む。径2~3mmの焼土多量に含む。炭化物が主体。
IV	10YR5/1	黒褐色	砂	なし	あり	径0.5mm以下の焼土を少量含む。径2~3mm炭化物を多く含む。レンガ片・木片・丸釘などを含む。
V	3Y5/2	灰オリーブ色	砂	なし	なし	径1~5mmの炭化物を多量に含む。
VI	10YR5/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2~3mmの炭化物を多く含む。径2~3mmの炭化物を多量に含む。
VII	10YR5/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径1~4mmの炭化物が主体。
VIII	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	なし	径2~3mmの炭化物を多量に含む。径0.5mm炭化物シルトブロックを少量含む。
IX	10YR5/1	黒褐色	砂	ややあり	ややあり	径2~3mm炭化物、灰白色土とブロックを少量含む。径2~4mmの炭化物をやや多く含む。
X	10YR5/2	オリーブ灰色	砂質	ややあり	なし	径2~3mmの炭化物。径1~2mmの炭褐色、灰白色シルトブロックを多く含む。
XI	10YR4/4	褐色	砂質	なし	なし	径3~4mmの炭化物が主体。径3~4mm炭褐色シルトブロックを多量に含む。
XII	10YR5/6	濃褐色	砂質シルト	なし	なし	径1~2mmの炭化物を多く含む。灰白色ブロックを多量に含む。焼土を多く含む。

No.4トレンチ遺構層土層記表

層位	土色		土質	性状		備 考
	土色	土色		粘性	しまり	
SK1	10YR5/8	黄褐色	砂質	ややあり	ややあり	灰白色のシルトブロック (径5cm) を多量に含む。径0.5mmの炭化物。焼土を多く含む。
P1	10YR5/1	黒褐色	粘土	なし	ややあり	径1~2mmの炭化物を少量。径1~3mm炭化物を多量に含む。焼土を多量に含む。
P2	10YR4/1	黒褐色	粘土	あり	なし	径1~2mmの炭化物を少量。径1~3mm炭化物を多量に含む。
P3	10YR5/1	黒褐色	粘土	あり	なし	径1~2mmの炭化物を少量。径1~3mm炭化物を多量に含む。

第10図 A区No.4トレンチ平面図・柱状図



0 3.0 10m

No.4 トレンチ出土 磁器観察表

発掘場所 記録番号	図面番号	掘二 状況	種類	器種	器体特徴	口径 (mm)		高さ (g)	成形・調整	器 部			胎土色	印・銘 など	製作 時期	備考	
						口徑	底径			胎体	文 様	装飾特徴					
区11-1 1-4	図版2-16	V~VII層	掘削	中腹	丸形 底心	(116)	(45)	欠属	17.5	22ヶ所	黄緑 色陶器	内：一 外：緑ヤシロ土	土研付	白色	一	尾形貞 一	新潟県立 考古学 研究所

第11図 A区No.4 トレンチ出土遺物

No.5 トレンチ (第12図、図版2-6~8、図版3-1・2)

No.5 トレンチは東西方向に長軸を設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の柱状図作成は北壁で行った。掘削は段状で行い、基本層Ⅹ層上面・Ⅺ層上面で遺構確認を行った。検出面の範囲は約2×3.5mで、掘削深度は約2.2mを測った。遺構は井戸跡1基と性格不明遺構2基とピット3基を検出した。遺物は13点出土した。その内容は、磁器9点、瓦4点である。

(1) SE1 井戸跡 (第12図、図版3-1)

調査区北壁西側のⅩ・Ⅺ層上面で検出された。上端規模は1.2m程の円形で径0.3~0.5m程の平らな礫によって石積みされている。開口部の径は約0.8mである。掘削深度は1m程であるが、北壁で掘り方を含め土16層を観察した。遺物は埋土から磁器1点、瓦1点が出土しており、磁器1点は基本層Ⅰ~Ⅳ層から出土した同一個体と接合する。遺構の時期は出土遺物が他にないため断定はできないが、近世の可能性が考えられる。

(2) P1・2・3 ピット (第12図、図版3-2)

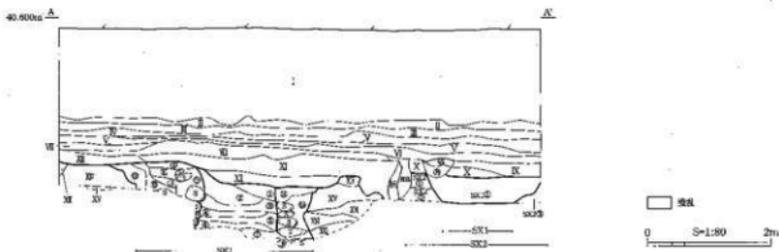
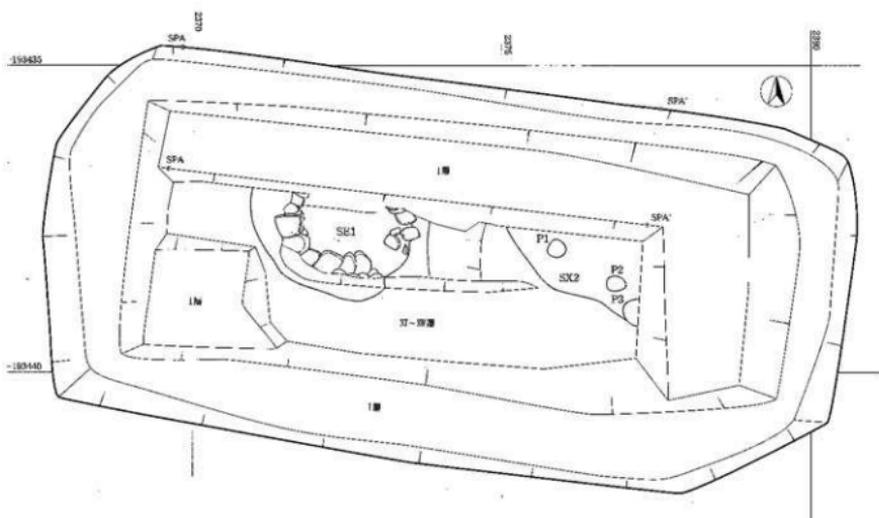
調査区東端 SX2 埋土上面で検出された。上端径は0.3m程の円形である。埋土は粘性の強いシルト質土で、木片の混入がみられた。出土遺物はない。遺構の新旧は切合いから SX1 より古く、SX2 より新しい。

(3) SX1・2 性格不明遺構 (第12図、図版2-8、図版3-2)

調査区東側で検出した。調査区北東へ広がり、規模は検出部分で1.5mを上回る。SX2はSX1に切られることから遺構の時期はSX2が古い。北壁断面と平面観察から共に溝状遺構の一部である可能性が考えられる。遺物はSX1①層から磁器2点、瓦1点が出土した。磁器のうち1点は18世紀前半~中葉の肥前系火入である。

(4) 遺構の検出面と時期

遺構は基本層Ⅹ・Ⅺ層上面で、6基検出した。Ⅹ・Ⅺ層上面はNo.1~No.4 トレンチの遺構確認面と対応する。遺構の変遷は新旧関係から3時期認められる。遺構の時期は遺物から近世と考えられる。遺構の検出状況からは、No.5 トレンチ周辺には近世の遺構が高い密度で存在していると推測される。



No.5トレンチ基本層土層記表

層記	土色		土質		土性		備考
	上地	地	結性	しまり			
I	10WR3/2	黒褐色	砂	なし	なし		中砂粒を多く含む黄土層。
II	10YR2/2	灰褐色	粘土	なし	あり		ガラス、レンガ多量に含む。
III	10YR2/2	褐色	砂礫	なし	なし		径1-2cmの砂礫を多く含む。
IV	10YR2/1	褐色	泥化砂	なし	なし		砂礫を多く含む、炭化物主体の層。隣土面に横土層が集中。
V	7.5Y3/2	オリーブ褐色	砂	なし	なし		径1-2cmの砂礫少量。
VI	7.5Y2/2	オリーブ褐色	砂礫	なし	なし		径2-3cmの礫を多く含む砂礫層。
VII	10YR2/1	褐色	砂質シルト	ややあり	なし		径5mmの炭化物破片を含む。大片や腐材混入。
VIII	7.5Y3/1	オリーブ褐色	砂	なし	なし		径5mmの炭化物破片、径3cmの炭を頻りに含む。
IX	10YR2/1	褐色	腐植土	なし	なし		径20cm程度の腐材を含む。
X	10YR2/1	褐色	シルト	ややあり	ややあり		径1-2cmの礫を少量含む。丸石の混入あり。
XI	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり		径1-2cmの礫を多く含む。炭化物、鉄屑を含む。
XII	10YR2/3	にがし褐色	砂	ややあり	なし		径5mmから1cmの炭礫色のシルトブロック少量含む。
XIII	10YR2/3	暗褐色	粘土	あり	なし		径1-2cmの炭化物、シルト粒、鉄片少量含む。
XIV	10YR2/4	暗褐色	砂礫	ややあり	なし		径1-2cmの礫が主体。炭化物多量を含む。
XV	10YR2/4	褐色	砂	ややあり	なし		径1-2cmの礫を少量含む。炭分を多く含む。
XVI	10YR2/3	にがし褐色	砂礫	なし	なし		径1-2cmの炭礫が主体。炭化物多量を含む。
XVII	7.5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	あり	ややあり		炭分を多く含む。粘土の混入あり。
XVIII	7.5Y4/2	灰オリーブ色	砂	なし	なし		炭分を多く含む。
XIX	10YR2/1	褐色	シルト	なし	ややあり		径1-2cmの礫を少量含む。針葉樹の混入あり。
XX	10YR2/1	褐色	褐色土	あり	ややあり		炭化物を多量に含む。丸石の混入あり。腐植土中。

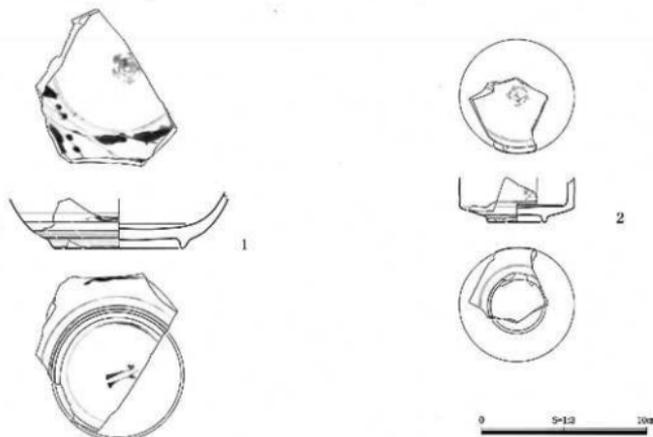
第12図 A区No.5トレンチ平面図・断面図

No.5トレンチSE1・SX1・2遺構埋土土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しまり	
SE1①10YR2/1	黒褐色	黒褐色土	シルト	ややあり	あり	径3~5cm粒玉砂利。炭化物を多く含む。
SE1②10YR2/2	黒褐色	黒褐色土	なし	あり	あり	径5cm大の礫を多く含む。径3cm大の炭土粒。炭化物を多く含む。
SE1③10YR2/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	あり	径5cm黄褐色のシルト粒を少量含む。炭化物を多く含む。
SE1④10YR2/1	黒褐色	シルト	なし	あり	あり	片層と同様やや明るい色調。
SE1⑤10YR2/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	あり	径1~2cmの礫を少量含む。径3mmのシルトブロックを少量含む。炭化物を多く含む。
SE1⑥10YR2/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	あり	V層と同様の層。
SE1⑦10YR2/1	黒褐色	シルト	ややあり	あり	あり	径1cmの円礫を少量含む。径5mm大の炭化物を多く含む。
SE1⑧10YR2/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	あり	径5~10cmの円礫を多く含む。
SE1⑨10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	なし	径5cmの礫を多く含む。
SE1⑩10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	なし	V層と同様だが、シルトブロックが混入されている。
SE1⑪10YR2/2	灰青褐色	シルト	ややあり	あり	あり	径5mm大のシルトブロックを多く含む粘土質の層。
SE1⑫10YR2/1	黒褐色	砂礫	なし	なし	なし	砂礫主体の層で礫が少なく含む。
SE1⑬10YR2/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	なし	径10cm大の礫を多く含む。
SE1⑭10YR2/2	灰青褐色	砂土	あり	なし	なし	径1cmの礫を少量含む。
SE1⑮7.5Y4/2	灰オリーブ色	砂	なし	なし	なし	埋入物が少ない砂層。
SX1①10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	あり	あり	径1cm程度の炭化物。やや多く含む。径3cm大の礫を少量含む。
SX1②10YR2/1	黒色	シルト	なし	あり	あり	径5cm大の礫を少量含む。炭質シルト粒を少量含む。
SX1③10YR2/1	黒色	シルト	なし	あり	あり	SX1②③層と同様の層だが、やや明るい。
SX1④10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	あり	径1cm大の礫を少量含む。

No.5トレンチP1~3遺構埋土土層註記表

層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しまり	
P1 10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	なし	木炭の腐り方のビッド。
P2 10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	なし	木炭の腐り方のビッド。
P3 10YR2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	なし	木炭の腐り方のビッド。炭化物を多く含む。



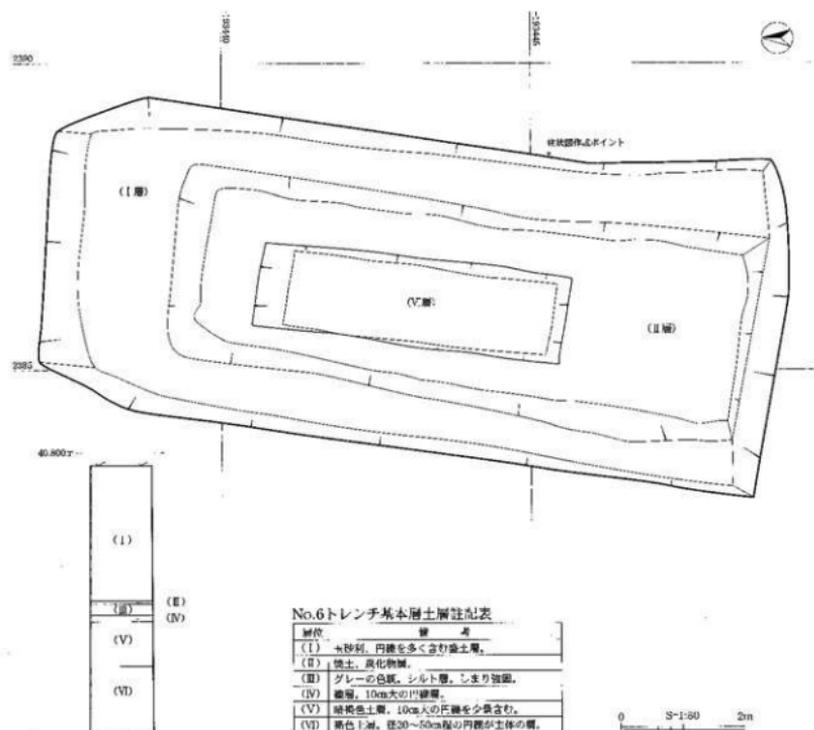
No.5トレンチ出土 磁器観察表

発掘番号 発掘地	調査番号	出土状況	形状	器種	原産地	直径 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	成形・調製	装飾		土色	印・筋など	製作年代	備考
										施行/施度	文様				
図13-1	J-5	図版⑨-16	7~8cm	小鉢	丸形	100	100	80.5	ロクロ	染付	文様	灰白色	無	17C 後半	※ 西1大塚南
図13-2	J-5	図版⑨-17	10cm	小鉢	丸形	100	100	17.0	ロクロ	染付	文様	灰白色	無	18C 後半	※ 西1大塚南
図13-3	J-7	図版⑩-1	SX1	磁器	片	100	100	5.5	ロクロ	染付	文様	灰白色	無	17C 後半	※ 西1大塚南
図13-4	J-8	図版⑩-2	SX1	磁器	丸入	100	100	12.0	ロクロ	染付	文様	灰白色	無	18C 後半	※ 西1大塚南

第13図 A区No.5トレンチ出土遺物

No.6 トレンチ (第14図、図版3-3・4)

No.6 トレンチは南北方向に長軸を設定した。掘削形状は10×3mの長方形で、面積は30㎡である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。本トレンチは他の5箇所のトレンチと様相が違い、I・II層は共通しているが、II層の焼土・炭化物層の下層は、他のトレンチには見られない礫(直径が10~50cm)を主体とした層である。砂礫層を検出するために下層へ掘削を行ったが、深さ約4.4mを掘ったところで、安全上の理由から砂礫層の検出を断念した。早急な埋め戻しの必要から、土層断面図はレベルを測定して柱状略図とした。上記の理由から他トレンチとは若干の精度差はあるものの、概ね土層の堆積状態を把握した。検出面の範囲は約1.2×4.2mで、深度は約4.4mを測った。遺構の検出はなく、遺物は出土していない。



第14図 A区No.6トレンチ平面図・柱状図

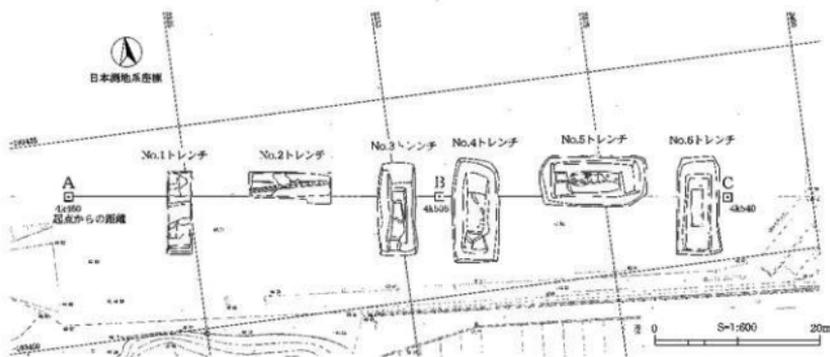
3 まとめ

A区の試掘調査は、No.1～No.6トレンチの6箇所で行った。調査面積は、180㎡である。

遺構確認の結果、No.1・No.3・No.4・No.5トレンチにおいて遺構が検出された。

No.1トレンチでは、土坑2基と性格不明遺構3基が基本層Ⅶ層上面で検出された。Ⅶ層上面は近世の遺構と考えられ、それに対応する遺構面はNo.2～No.5トレンチにおいても確認され、近世の遺構も検出されている。

これらの遺構群には、3時期にわたる新旧関係が認められるトレンチがあること、各トレンチとも近世の遺物出土量が多いことから、A区には、ほぼ全域に近世の遺構が存在し、3時期以上の遺構の変遷が考えられる。



第15図 A区全体平面図

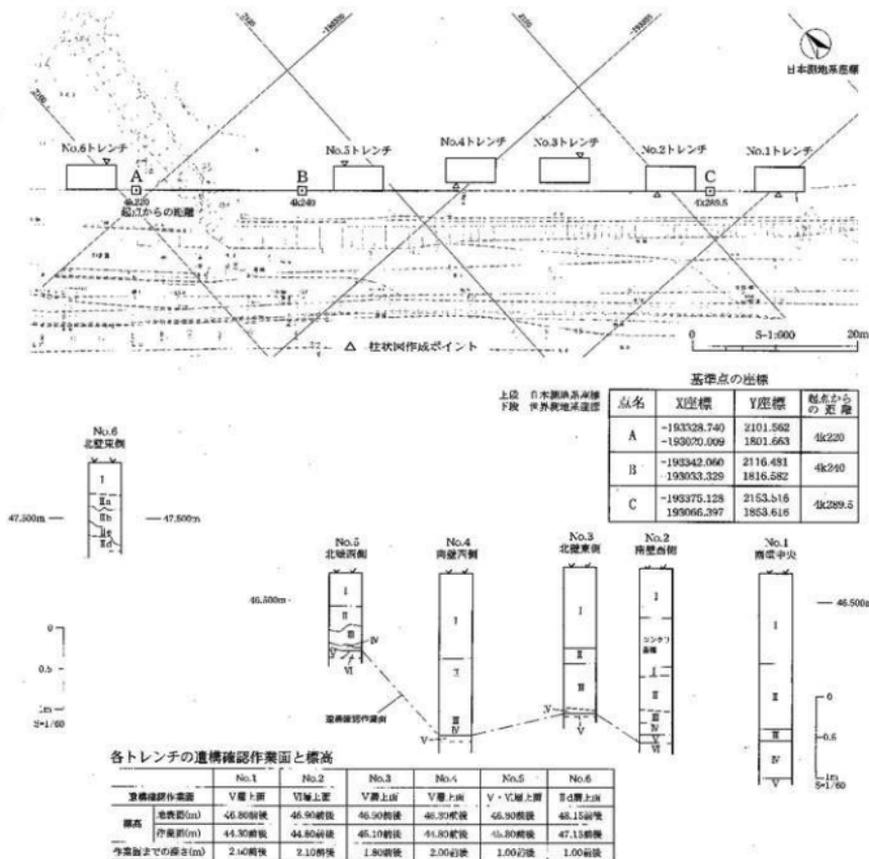
表2 A区出土遺物集計表

A区	遺文土器 点 / 数量(点)	磁器		陶器		石器		瓦		鉄製品		ガラス		石器		合計 点 / 数量(点)
		点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)	点 / 数量(点)			
No.1トレンチ	段取	6 / 154.2	3 / 27.2	4 / 94.4												17 / 711.4
	I～IV層		12 / 166.1	6 / 244.4												26 / 1,314.9
	V層		7 / 41.5	3 / 91.4												20 / 1,146.9
	SK1													1 / 2.6		1 / 2.6
	SK1	3 / 31.3														3 / 31.3
No.3トレンチ	I～IV層		8 / 70.1	3 / 84.7				12 / 1539.0	1 / 117.9							24 / 1,811.7
	V～Ⅶ層		6 / 31.8	6 / 64.3				10 / 569.5								22 / 685.7
	V～Ⅶ層		2 / 6.6	2 / 77.7				27 / 2132.0								31 / 2,216.3
No.4トレンチ	I～IV層		1 / 10.9	3 / 24.9												4 / 35.8
	V～Ⅶ層		3 / 65.5					1 / 82.6								4 / 148.1
	V～Ⅶ層								1 / 68.9							1 / 68.9
No.5トレンチ	V層		2 / 5.3					1 / 54.1	1 / 26.7							4 / 86.1
	Ⅷ～Ⅸ層		3 / 73.9													3 / 73.9
	Ⅷ～Ⅸ層		2 / 5.0					2 / 95.2								4 / 100.2
No.6トレンチ	Ⅷ層		1 / 17.6													1 / 17.6
	SE1		1 / 54.5					1 / 45.7								2 / 101.2
	SK1		2 / 21.9					1 / 352.6								3 / 354.5
	合計	9 / 185.5	53 / 817.0	29 / 681.8	0 / 0.0	72 / 6,931.1	5 / 480.9	1 / 7.6	1 / 2.6	1 / 2.6	170 / 8,506.5					

V. B区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

路線敷センターラインに沿うように、6箇所のトレンチを設定した。掘削形状は3×6mの長方形を基準とし、南よりNo.1～No.6と名称を付け、No.1トレンチより調査を行った。調査面積は108㎡である。重機により表土を除去し、トレンチ全体を遺構確認面まで掘り下げる予定であったが、No.1～No.4トレンチは、盛土の堆積が厚く、埋設管および構造物基礎もあったことにより、一部段をつけ掘削、平・断面の確認を行った。掘削深度2m前後の層序で遺構確認作業を行った。No.2～No.5トレンチは、基本層序の観察において対応する基本層を確認した。遺構確認を行った作業面を一点鎖線で、層位はローマ数字で表記した。

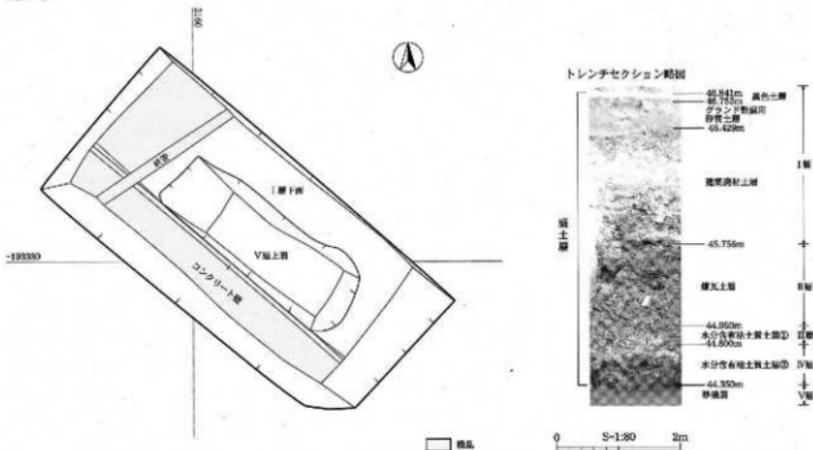


第16図 B区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 検出された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第17図、図版3-7・8)

No.1 トレンチは、北西より南東へ長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の観察は南壁で行った。グラウンドの砂礫層下からは、建築廃材が多く混入した盛土層および構造物の基礎、煉瓦が主体の盛土層が約2m下まで続いた。平面での確認を断念し、下層の堆積状況の確認を行った。深さ約2.5mを測ったところで砂礫層を確認したが、安全上の理由から掘削を止めて写真撮影を行った。早急な埋め戻しの必要から土層断面図は、レベルを測定して柱状略図とした。掘削深度は約2.5mを測った。遺構の検出、遺物の出土はない。



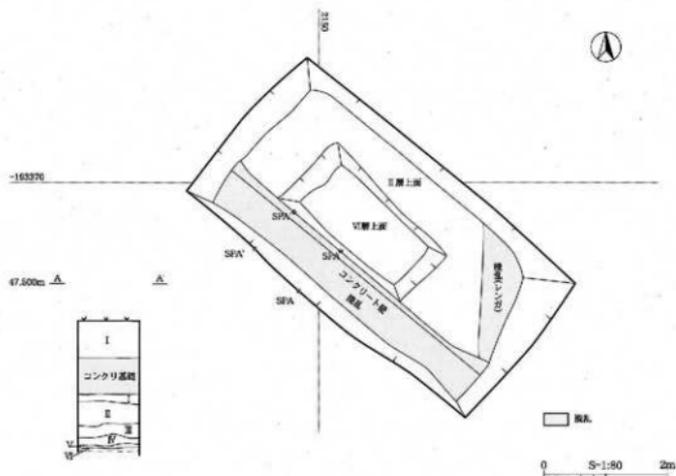
第17図 B区No.1トレンチ平面図・柱状略図

No.2 トレンチ (第18図、図版4-1・2)

No.2 トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。地表下0.4mほどで西側に近・現代の構造物に伴うであろうコンクリートの基礎が現れた。さらに掘削を進め基礎底部よりやや下からII層(鉄分を多く含むシルト質土層)を確認し、遺構確認を行った。南側平面において煉瓦を多く含む範囲を観察したが、No.1の断面で確認された煉瓦土層と同様と思われるため、近代構造物に関わる擾乱と判断した。一部深掘りを行い、基本層VI層を確認した。掘削深度2.1mを測った。VI層上面で遺構確認を行ったが、遺構の検出はない。遺物はI層より近代の陶器片1点が出土した。

No.2トレンチ基本層土層記表

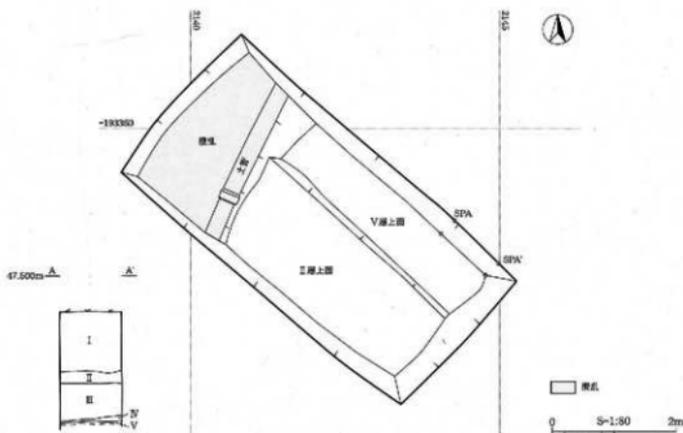
層位	土色		土質	土性		備 考
	土色地	土色		粘性	しまり	
I	2.5Y5/6	黄褐色	砂質土主体	なし	ややあり	3層に分かれる。グラウンド層下の砂礫。その下コンクリート基礎の掘り方(10YR5/3)。
II	10YR4/1	黒灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	約10cmの厚く約5m大の円筒を少量含む。炭化腐敗層を含む。
III	10YR4/2	にぶ青褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	約5~10cmの円筒を多く含む。軽分を含む。
IV	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	約2~3cmの小礫を少量含む。
V	2.5Y3/2	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	約2~3cmの小礫を多量に含む。金属申しまり層一部あり。
VI	7.5Y5/1	灰色	砂礫	あり	ややあり	約1~2cmの小礫を多量に含む。約10cm程度の礫を含む。砂質シルト、鉄分含む。



第18図 B区No.2トレンチ平面図・柱状図

No.3トレンチ (第19図、図版4-3・4)

No.3トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。表層下0.4m程で北側にコンクリート製の排水管の存在を確認した。これを避ける形で掘削を進め、II層上面および下層のV層上面まで掘削を行なった。掘削深度は約1.8mを測った。V層上面で遺構確認を行ったが、遺構の検出はない。基本層から遺物の出土はない。



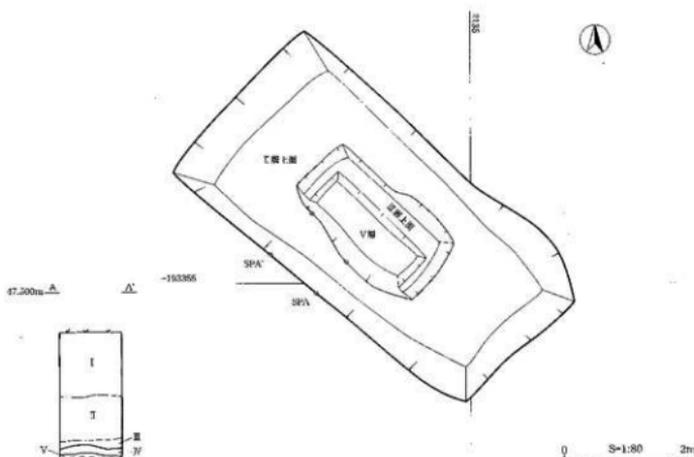
第19図 B区No.3トレンチ平面図・柱状図

No.3トレンチ基本層土層詳記

層位	土色		土質	土性		備考
	1色No.	土色		粘性	しどり	
I	2.5Y5/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	3層に分かれる。グラウンド地用の砂礫。その下に20cm程度の円礫の混入した砂質土(7.5Y6/2)。小礫の入った砂質土(10Y7/2)。
II	10YR4/1	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	5cm小礫を多量に含む。表層部礫を多量に含む。
III	2.5Y4/3	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	10~3cm程度の円礫を多量に含む。厚1cm程度の灰白色シルト層を多く含み、鉄分を含む。
IV	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	10~3cmの小礫を多量に含む。厚2cm程度のブロックを多量に含む。
V	7.5Y5/1	灰色	砂礫	あり	ややあり	10~2cmの小礫を多量に含む。厚1cm程度の礫を含む。砂質シルト、鉄分を含む。No.2トレンチの3層と同一層。

No.4トレンチ (第20図、図版4-5・6)

No.4トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の柱状図作成は西壁で行った。地表下1m程でII層上面を検出、特に土層の変化はなくIII層上面およびV層まで段状に掘削し、遺構確認を行った。掘削深度は、約2.0mを測った。V層上面で遺構確認を行ったが遺構の検出はない。V層砂礫中より土器1点が出土したが、細片で摩滅が顕著なため時期は不明である。



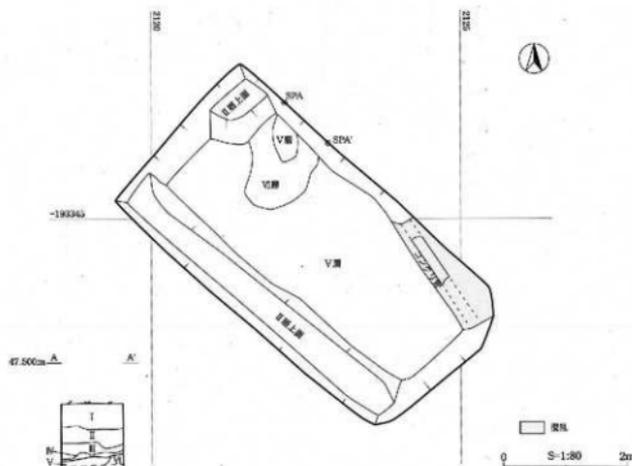
No.4トレンチ基本層土層詳記

層位	土色		土質	土性		備考
	1色No.	土色		粘性	しどり	
I	2.5Y5/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	3層に分かれる。グラウンド地用の砂礫。5~10cmの円礫を多量に含む。厚1cm程度の灰白色シルト層を多く含む。
II	10YR6/8	暗黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	5~10cmの円礫を多量に含む。鉄分を多く含む。
III	5Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	ややあり	なし	10~3cmの灰白色シルト層を多量に含む。
IV	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	20cm程度の円礫を多量に見られる。円礫も多量に含む。
V	2.5Y6/6	暗黄褐色	砂礫	あり	なし	10~5cmの小礫を多量に含む。砂質シルト、鉄分を多く含む。

第20図 B区No.4トレンチ平面図・柱状図

No.5トレンチ (第21図、図版4-7・8)

No.5トレンチは、北東から南東へ長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の柱状図作成は東壁で行った。地表下0.4m程でII層上面を確認、遺構の検出はなく、さらにIII層上面および下層のV層まで埋設管を避け、遺構確認を行いながら掘削を行った。掘削深度は1mを測った。遺構の検出はない。基本層から遺物の出土はない。



No.5トレンチ基本層土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しまり	
I	2.5Y6/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	グラント礫地用の砂層。
II	10Y8.5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	10cm大の円礫を多く含む。2-5cmの円礫も多い。
III	7.5Y6/1	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2-3cmの灰白色シルト殻を散見に含む。
IV	10Y6/1	灰褐色	粘土シルト	あり	あり	5cm大の円礫散見に含む。鉄分を含む。
V	5Y6/1	灰褐色	砂質シルト	あり	なし	3cm程度の小礫を散見に含む。
VI	5Y6/1	灰褐色	砂質	あり	ややあり	5cm大の円礫を多量に含む。砂質シルトを含む。

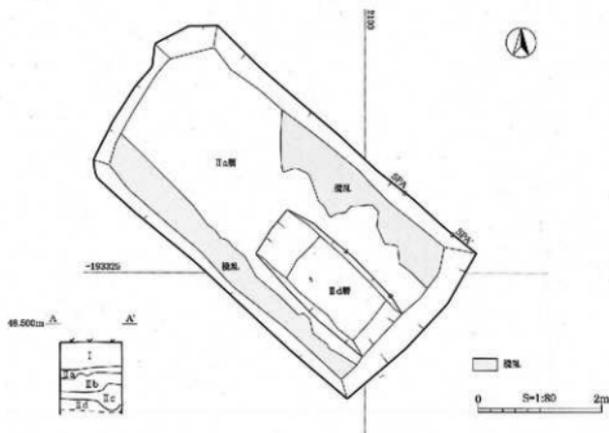
第21図 B区No.5トレンチ平面図・柱状図

No.6トレンチ (第22図、図版5-1・2)

No.6トレンチは、北西から南東へ長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層の柱状図作成は東壁で行った。現地表下0.4m程で段丘礫層(基本層II層)を確認した。II a層上面で遺構確認を行ったが、遺構の検出はない。一部II d層まで深掘を行った。掘削深度は、1.0mを測る。基本層から遺物の出土はない。

No.6トレンチ基本層土層註記

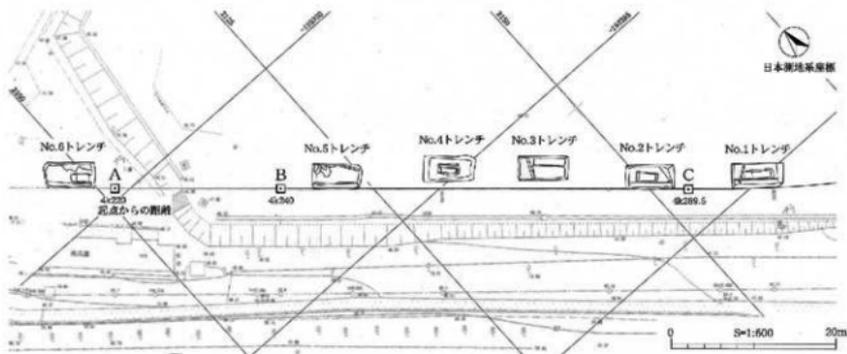
層位	土色		土質	土性		備考
	土色%	土色		粘性	しまり	
I	10Y8.5/6	黄褐色	砂	なし	ややあり	円礫・砕石・コンクリート塊を含む礫土層。
II a	10Y7/1	灰褐色	砂質	ややあり	あり	鉄分が多く混入され、灰色の部分と黄褐色の部分あり。砂質シルトを含む。
II b	5Y6/6	明茶褐色	砂質	ややあり	なし	10cm大の円礫を少量、1cm大の小礫を多量に含む。砂質シルトを含む。
II c	10Y8.5/6	黄褐色	砂質	なし	あり	10cm大の円礫を散見に含む。鉄質。鉄分が多く含む。砂質シルトを含む。
II d	2.5Y6/6	黄褐色	砂質	なし	あり	10cm大と1-2cmの小礫を多量に含む。鉄分多く含む。砂質シルトを含む。



第22図 B区No.6トレンチ平面図・柱状図

3 まとめ

B区を試掘調査は、No.1～No.6トレンチの6箇所で行った。調査面積は、108㎡である。遺構確認の結果、いずれのトレンチにおいても遺構は検出されなかった。遺物は5点出土した。



第23図 B区全体平面図

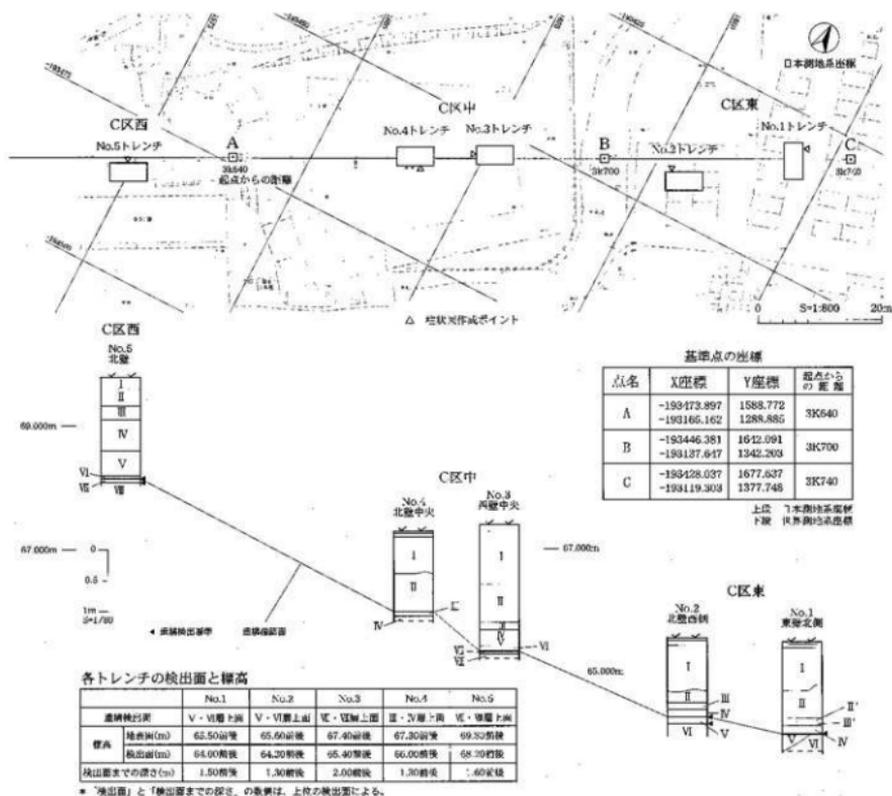
表3 B区出土遺物集計表

B区	田舎	陶器		石器		土器		瓦		鉄製品		ガラス		石器		合計	
		点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)		
No.3トレンチ	I層			1	2.6											1	2.6
No.4トレンチ	V層					1	9.9									1	9.9
グラウンド	表層	3	20.0													3	20.0
合計		3	20.0	1	2.6	0	0.0	1	9.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	32.5

VI. C区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

C区は調査区を3区に細分し、C区東・C区中・C区西とした。C区東・C区中は共に駐車場内であるため、占有面積を考慮しなるべくセンターラインに沿う形で4箇所を設定した。掘削形状は3×6mの長方形を基準とした。トレンチは、東よりNo.1～No.5と名称を付けた。C区の調査面積は102㎡である。C区東・C区中は、舗装部分を単機にて取り壊し、表土の除去を行った。慎重に掘り下げ約1.4m程で粘性の強いシルト質土層を確認し、それより下層を調査対象とした。C区西は、発生土置き場確保のためセンターラインより若干南へ移動する形で1箇所を設定した。隣接する既存建物および境界柵の関係により小型の重機により掘削・埋め戻しを行った。基本層位はトレンチごとにローマ数字で表記した。遺構確認面を実線で、遺構が検出された層序を◀で表記した。



第24図 C区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 検出された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第25図、図版5-5・6)

No.1 トレンチは北西方向に長軸を設定した。掘削形状は4×6mの長方形で、面積は24㎡である。基本層の柱状図作成は東壁と西壁で行った。円礫が多く混入した盛土を除去し、Ⅲ層上面を検出し遺構確認を行った。古い埋設管の攪乱と共に遺構を検出したが平面形が明確にならず、さらに人力による掘り下げを行ない、基本層Ⅴ層上面・Ⅵ層上面にて確認を行った。掘削深度は1.5mを測った。遺構は土坑1基、性格不明遺構3基、ピット3基が検出された。遺物は陶磁器類・瓦が18点出土した。出土遺物の中には17世紀前葉～後葉の瀬戸英濃系の小皿、17世紀後葉の肥前系の瓶・碗を含む磁器が、基本層Ⅴ・Ⅵ層中より出土している。

(1) SK1 土坑 (第25図、図版5-5・6)

調査区東壁北側の給水鉄管攪乱より下、トレンチ断面観察時においてⅣ・Ⅴ層を掘り込むかたちで検出された。平面形は円形で上端の規模は0.5m程で、調査区北東外側へ広がる。出土遺物はない。

(2) P1・2 ピット (第25図、図版5-5・6)

東壁北寄り検出された。P1は南側を大部分攪乱されている。上端径は約0.3mの円形と思われる。東壁断面で観察された埋土は、炭化物を多く含む砂質シルト土の単層である。P2は東壁断面で観察された。埋土は粘土質シルト土で、やや鉄分を多く含む単層である。出土遺物はない。

(3) P3 ピット (第25図、図版5-5)

調査区南側SX3の遺構の平面形内で検出された。SX3②層を掘り込みSX3より新しい。上端径は0.3m程で正円形である。埋土は粘性の強い粘土質シルト土である。出土遺物はない。

(4) SX1 性格不明遺構 (第25図、図版5-5)

調査区中央部で検出され、南北を攪乱されている。規模は約2.0m以上を測るが、調査区外へ広がる。平面形は不明である。南側はSX2を切る。出土遺物はない。

(5) SX2 性格不明遺構 (第25図、図版5-5)

トレンチ中央の一部と、南側の大半を占める攪乱中に残存部のみ確認された。本来はトレンチ中央から南にかけて広がっているものと推測される。北側に位置するSX1に切られる。出土遺物はない。

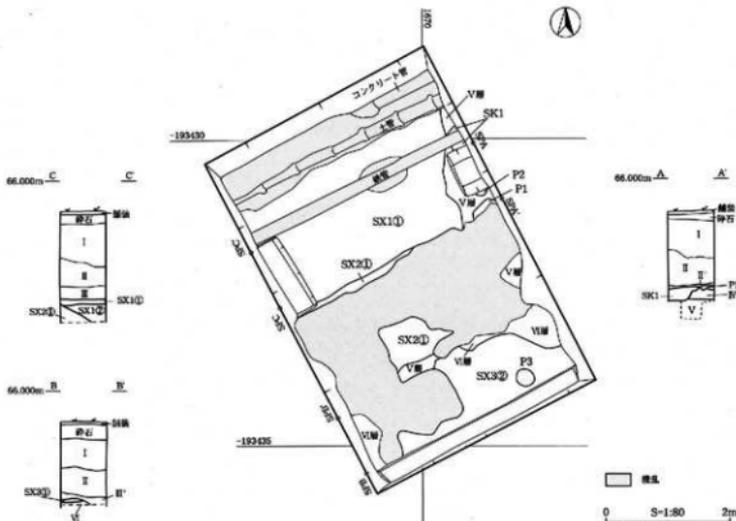
(6) SX3 性格不明遺構 (第25図、図版5-5)

トレンチ南端、SX2の南側で検出された。上端の規模は約3mを測る。断面観察ではⅤ・Ⅵ層を掘込んでいることが確認され、平面的にはトレンチの南へ広がる。埋土は炭化物・鉄分を多く含む粘土質シルト土である。出土遺物はない。

(7) 遺構の検出面と時期

遺構は、基本層Ⅴ層上面・Ⅵ層上面で7基検出した。遺構の変遷は、新旧関係から2時期認められる。基本層Ⅴ層上面・Ⅵ層上面は、出土遺物などから、近世の遺構面と考えられる。³⁴⁾

遺構の検出状況からは、トレンチ近辺の遺構密度は高いと推測される。



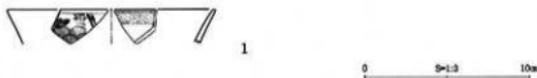
No.1トレンチ基本層・遺構埋土層注記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
I	10YR2/1	黒褐色	礫	ややあり	ややあり	3~5cmの礫主体の層、遺土層。
II	10YR2/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	厚5mm~1cm灰白色シルトブロックを含む炭化物少量、鉄分を含む。
III	10YR2/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量、鉄分を含む。厚1~2mmの灰白色シルト層を多く含む。
IV	10YR2/7	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2cmの小礫を含む。鉄分含む炭化物少量。
V	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1~2mmの炭化物少量、鉄分を含む。
VI	10YR3/4	にじみ黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1~2mmの炭化物少量、鉄分を含む。直層よりやや明るい色調。
V	10YR3/4	にじみ黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	鉄分多量を含む。下層より明るい色調。
P1	10YR4/4	灰黄褐色	砂	ややあり	なし	小礫主体の砂層、鉄分含む。
P1	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	炭化物多量を含む。
SK1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	鉄分多量を含む。炭化物少量含む。

No.1トレンチ遺構埋土層注記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
SK1	10YR2/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	鉄分を多量に含む。径1~2mmの小礫を含む。
SK2	10YR2/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	灰白色シルトブロック多く含む。炭化物少量、鉄分含む。
SK2	10YR3/7	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1~2cmの小礫を含む。木片混入、炭化物少量。
SK3	10YR3/1	オレンジ色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物、鉄分多量に含む。

第25図 C区No.1トレンチ平面図・柱状図



No.1トレンチ出土 磁器観察表

発見番号	発見場所	種類	器種	形状特徴	位置 (cm)		高さ (g)	成形・調色	装飾		出土色	片・破	製作所	製作年代	備考	
					口徑	底径			底径	文様						装飾特徴
HC26-1	掘削10-5	V層	甕	底平	G20	Q11	欠片	2.8	口付ロ	条付 透明釉	器内: 灰方漆文 外: 牡丹文	白色	-	肥後県	19C前 ~中	
J-10	掘削10-3	V層	甕	底平	欠片	Q10	欠片	1.0	口付ロ	条付 透明釉	器内: 漆線三 外: 灰文	白色 オクス黄	-	肥後県	19C前 ~中	
I-4	掘削10-4	V層	甕	小鉢	底平	Q10	欠片	1.8	口付ロ 口縁部	条付 透明釉	器内: 漆線三 外: 灰文	白色 灰白色	-	肥後県	17C前 ~中	1001 二次焼成

第26図 C区No.1トレンチ出土遺物

No.2トレンチ (第27図、図版5-7・8、図版6-1・2)

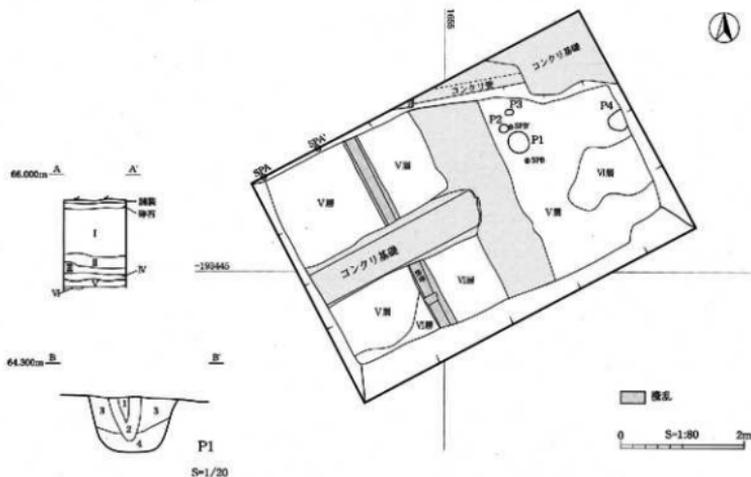
No.2トレンチは北東方向に長軸を設定した。掘削形状は4×6mの長方形で、面積は24㎡である。基本層序の柱状図作成は北壁で行った。礫が多く混入した盛土を除去し表層より1.1m程下で、Ⅲ層上面を検出し遺構確認を行ったが、これより下層にて古い埋設管と構造物の基礎による大きな攪乱が確認された。この攪乱を除去した後、下層へ入力による掘り下げを行い、基本層V層上面・VI層上面で遺構確認を行った。掘削深度は約1.3mを測った。遺構は、ピットを4基検出した。その中のP1は半截による断面観察において、粘性の強い粘土質シルト埋土中に明瞭な柱底が確認されたことで柱穴と判断した。出土遺物は瓦片2点である。

(1) P1・2・3・4ピット (第27図、図版5-7、図版6-1・2)

調査区東側のV層上面で検出された。P1・4は正円形で上端径0.3～0.4mである。P1の埋土は4層からなり柱底を残す。P2・3は上端径0.1m程で、埋土は粘性のあるシルト質土である。遺物はない。

(2) 遺構の検出面と時期

遺構の検出面のV層上面は、No.1トレンチの基本層VI層上面と対応する。No.2トレンチのVI層上面では遺構は確認されていないが、No.1トレンチとの層位の対応から、No.2の基本層V層上面・VI層上面は、近世の遺構面と考えられる。



No.2トレンチ基本層土層註記

層位	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	10YR3/1 黒褐色	礫主体の盛土	なし	あり	盛土層。5~10cmの円礫を主体とする。炭化物(1~2cm)を少量含む。
II	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭褐色土。灰白色シルトブロック(2~3cm)を多く含む。鉄分を多く含む。
III	10YR5/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物1~2cmを少量含む。鉄分を含む。
IV	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物1~2cmを少量含む。鉄分を多く含む。層厚より層が狭く軽い。
V	10YR5/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	鉄分を多く含む。炭化物を少量含む。
VI	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	あり	あり	2~3cmの小礫主体の層。鉄分を多く含む。炭化物少量(1~2cm)。

P1 遺構埋土層註記

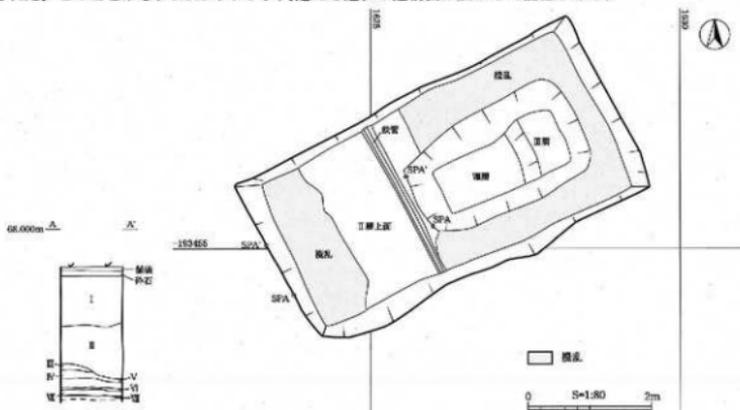
層位	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	鉄分を含む。炭化物主体。
2	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	鉄分を少量含む。
3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	鉄分を多く含む。炭化物少量。
4	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	3層よりやや明るい色層で砂質よりも硬す。

第27図 C区No.2トレンチ平面図・柱状図・P1断面図

No.3 トレンチ (第28図、図版6-5・6)

No.3 トレンチは、北東方向に長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の柱状図は西壁で行った。コンクリガラと礫が多く混入した盛土を除去し、表層より1.5m程下でII層上面を検出し、遺構確認を行った。しかし、II層もまた古い埋設管と構造物の基礎敷設の擾乱層であり、一部を重機により掘り下げ、断面観察において基本層III層～VII層を確認した。掘削深度は約2mを測った。遺構の検出はない。遺物は磁器が1点出土した。

No.3 トレンチでは遺構の検出はないが、No.1・2 トレンチの基本層V層・VI層と対応する基本層VII層・VIII層が確認された。このことから、No.3 トレンチ周辺にも近世の遺構面が広がる可能性がある。



No.3トレンチ基本層土層記

層位	土色			土質		土性		備 考
	土色No.	土 色	土 質	粘性	しめり			
I	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3~5cm程度の円礫多量、10~20cmの礫も見られる。盛土。		
II	10YR6/8	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~10cm程度の円礫を少量含む。灰白色シルトブロックを少量含む。盛土。		
III	2.5YR6/9	暗色	砂質シルト	ややあり	ややあり	成分を多く含むたの灰色土壌。灰白色シルトブロックを多量に含む。		
IV	2.5YR/3	濃褐色	粘土質シルト	あり	あり	成分を少量含む。灰白色シルトブロックを多量含む。		
V	2.5YR/3	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	成分を多く含む。径1mm程度の灰白色シルトブロックも見られる。		
VI	2.5Y7/3	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	成分を多量に含む。径1~2mmの灰白色シルト礫を少量含む。		
VII	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	成分を少量含む。径1~2mmの灰白色シルト礫を少量。シルトブロックも見られる。		
VIII	2.5Y7/2	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	成分を少量含む。径1~2mmの灰白色シルト礫を多量に含む。		

第28図 C区No.3トレンチ平面図・柱状図

No.4 トレンチ (第29図、図版6-7・8)

No.4 トレンチは北東方向に長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、面積は18㎡である。基本層序の柱状図は南壁で行った。舗装を取り壊した後、コンクリガラが多く混入した盛土を除去し、表層より1.3m程下でIII層上面を検出したが、埋設管等に大きく擾乱を受けていたため、これも除去し、基本層III層・IV層上面を検出し、遺構確認を行った。掘削深度は約1.3mを測った。遺構の検出はない。遺物はない。

No.4 トレンチでは遺構の検出はないが、No.1・2 トレンチの基本層V層・VI層と対応する基本層III層・IV層が確認された。このことから、No.4 トレンチ周辺にも近世の遺構面が広がる可能性がある。

No.4トレンチ基本層土層記

層位	土色			土質		土性		備 考
	土色No.	土 色	土 質	粘性	しめり			
I	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3~5cm程度の円礫多量、10~20cmの礫も見られる。レンガも見られる。盛土。		
II	10YR6/8	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~10cm程度の円礫を少量含む。2cm程度の円礫を多量に含む30cm程度の円礫も見られる。盛土。		
III	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	成分を少量含む。径1~2mmの灰白色シルト礫を少量。シルトブロックも見られる。		
IV	2.5Y7/2	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	成分を少量含む。径1~2mmの灰白色シルト礫を多量に含む。		
V	10YR7/1	灰白色	砂質シルト	ややあり	あり	成分を多量に含む。砂質シルトであるがかなり硬い。平面での確認。		



第29図 C区No.4トレンチ平面図・柱状図

No.5トレンチ (第30図、図版7-2~4)

No.5トレンチは、北東方向に長軸を設定した。掘削形状は3×6mの長方形で、掘削面積は18㎡である。基本層序の断面図・柱状図作成は北壁で行った。地表面より0.4m程下のⅢ層上面で遺構確認したが遺構の検出はなく、下層への掘削を進め、基本層Ⅶ層上面・Ⅷ層上面で遺構確認を行った。掘削深度は約1.6mを測った。遺構は性格不明遺構を4基検出した。遺物は15点出土した。その内容は、17世紀後葉の肥前系碗・香炉などを含む近世の陶磁器類・瓦片が主である。

(1) SX1 性格不明遺構 (第30図、図版7-3)

調査区北西の角、Ⅷ層上面で検出された。上端規模1m程の不整形形で調査区外への広がりを見せる。埋土は、白色シルトブロックと鉄分を多く含む砂質シルト土である。遺構確認面からの遺物の出土はないが直上の基本層より近世の陶磁器が数点出土しており、遺構に関わる遺物の可能性もある。

(2) SX2 性格不明遺構 (第30図、図版7-3)

調査区西側中央、Ⅷ層上面で検出された。上端規模1.8m程の円形で、埋土は5~10cmの礫の混入した粘性のある砂質シルト土である。遺物の出土はない。

(3) SX3 性格不明遺構 (第30図、図版7-3・4)

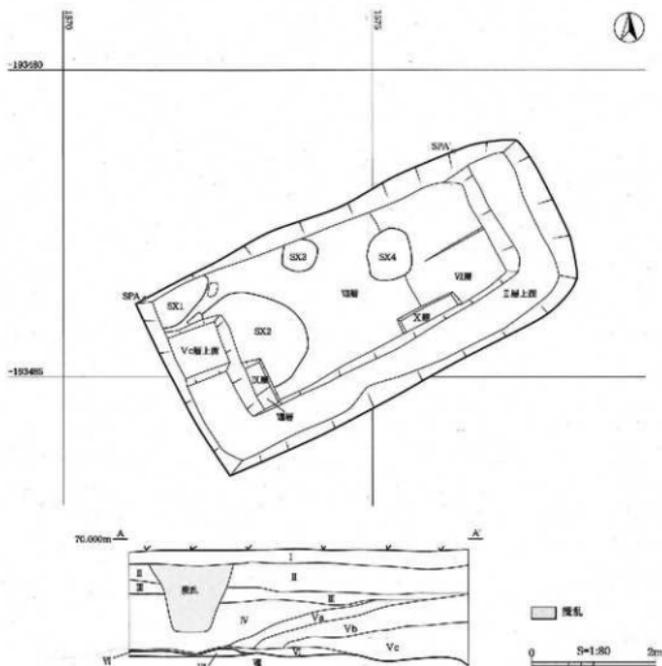
調査区中央北壁下、Ⅷ層上面で検出された。上端規模0.6m程の円形を呈する。埋土は炭化物、白色シルトブロックを多く含む砂質シルト土である。遺物の出土はない。

(4) SX4 性格不明遺構 (第30図、図版7-3)

調査区中央、Ⅶ・Ⅷ層上面で検出された。上端規模0.9m程の不整形形で調査区西側への広がりを見せる。埋土は3~5cm大のシルトブロックが少量混入した砂質シルト土である。遺物の出土はない。

(5) 遺構の検出面と時期

遺構は、基本層Ⅶ層とⅧ層上面で4基の性格不明遺構が検出された。そのうち、SX1は北壁の観察から掘り込み面はⅧ層上面であること、SX4はⅦ層とⅧ層上面で検出されていることから、遺構面はⅦ層上面とⅧ層上面の2時期ある。基本層Ⅶ層上面・Ⅷ層上面は、No.1・2トレンチの基本層Ⅴ層上面・Ⅵ層上面にそれぞれ対応すること、遺物はⅦ層から近世の磁器が出土していることから、近世の遺構面と考えられる。



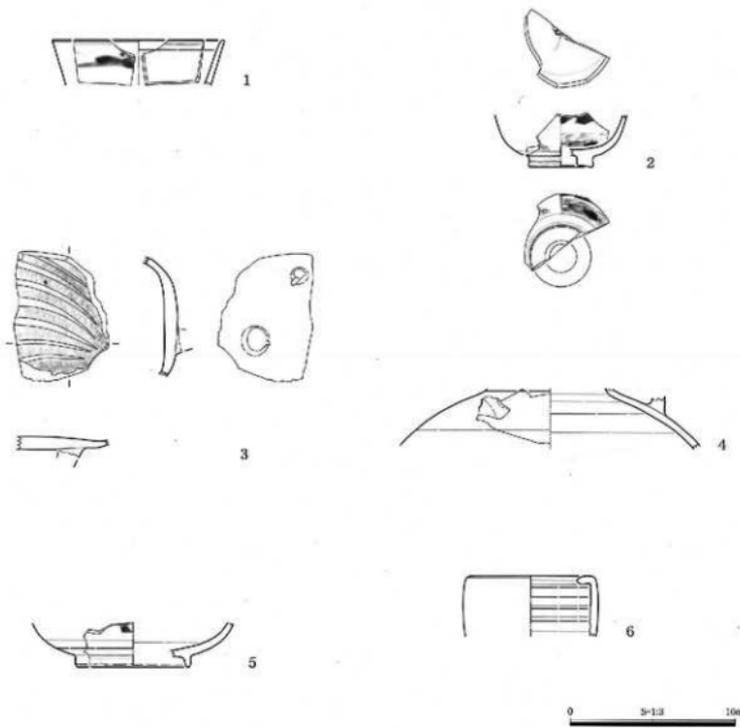
No.5トレンチ基本層土層注記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
I	10YR2/1	黒褐色	黒粘土	なし	なし	
II	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	厚さ10cmの円筒を多く含む。白色シルトブロックが多く埋入する層土層。
III	10YR4/7	灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	厚さ2-3cmの層を多く含む。砂質シルトが主体。水分多く含む。
IV	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土	ややあり	なし	厚さ10cmの砂を主体とする層土。硬質シルトブロックを多く含む。
Va	10YR4/6	褐色	砂	なし	ややあり	粘土質のシルトブロック(1~2cm)を多く含む。水分少量。
Vb	10YR4/4	褐色	砂土	ややあり	ややあり	硬質の埋入がやや多く。風みがかつた色調。
Vc	10YR3/4	褐色	粘土	ややあり	あり	厚さ10cmの層を多く含む。
VI	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	厚さ10cmの層を多く含む。白色シルトブロック埋入。水分少量。
VII	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	水分多く含む。粘土質シルトであるが、砂質シルトも含まれている。
VIII	10YR6/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	水分多く含む。厚さ2-3mmの炭化物も埋入。
IX	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	水分、砂質シルトを多く含む。
X	7.5Y7/2	灰白色	粘土質シルト	あり	ややあり	水分多く含む。砂質シルト埋入。

No.5トレンチ遺構埋土層注記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
SX1	10YR7/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	白色のシルトブロック(厚さ2-3mm)を多量に含む。水分多く含む。
SX2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	水分を多く含む。炭化物少量。厚さ10cmの埋入。
SX3	10YR5/7	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	厚さ2-3mmの炭化物が多く埋入。白色シルトブロック厚さ5mmの埋入。水分少量。
SX4	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	水分を多量に含む。厚さ2-3mmの炭化物少量。厚さ5mmのシルトブロック少量埋入。

第30図 C区No.5トレンチ平面図・北壁断面図



No.5 トレンチ出土 磁器・陶器観察表

発掘層位 図録番号	瓦器番号	山名 形状	種類	形状特徴	寸法 (mm)		重量 g	場所・課題	器 型			胎土の 観察	印・施 立文	裏 面 形状	備 考
					口径	高さ			器行/器高	文 様	装飾特徴				
図31-1 J-11	図録10-6	IV層	磁器	中央 溝反折	φ60	φ80	6.6	ロクロ	染付 透明釉	緑丸・緑線二色 外：草花文	-	白色 ガラス面	-	磨研・ 丸底溝 19C.前 ～中	
図31-2 J-12	図録10-7	IV層	磁器	中央 溝の凹内面	大径	φ30	20.7	ロクロ 壁の凹内面	染付 透明釉	見込：花文 外：灰掛 山文	-	白色	-	凹縁溝 19C.前 ～中	内・外：透縁あり
図31-3 J-5	図録10-8	IV層	陶器	小皿 変形	大径	φ40	51.3	磨研 器行跡 (1)	-	内：- 外：-	磨研	灰白色	-	磨研・ 丸底溝 18C.前 ～中	
図31-4 J-6	図録10-10	IV+V層	陶器	大皿 丸形か	大径	φ70	34.0	ロクロ 磨研跡	染付 透明釉	内：- 外：-	-	灰白色	-	丸底溝 18C.前 ～中	
図31-5 J-13	図録10-13	V層	磁器	器底 凹縁部	大径	φ60	12.6	ロクロ 削り跡	染付 透明釉	内：- 外：-	磨研	灰白色	-	凹縁溝 17C.中 ～後	
図31-6 J-14	図録10-14	V層	磁器	香炉 舟形	φ70	φ70	7.9	ロクロ	染付 透明釉	内：- 外：草花文	-	白色 ガラス面	-	磨研・ 丸底溝 19C.前 ～中	
J-15	図録10-9	IV層	磁器	酒罎 -	大径	φ30	1.8	ロクロ	-	内：- 外：-	-	白色	-	凹縁溝 17C.中 ～後	
J-16	図録10-11	IV層	磁器	小皿 丸形	大径	φ30	3.3	ロクロ	-	内：- 外：-	-	白色	-	凹縁溝 17C.中 ～後	
J-17	図録10-12	磁器	陶器	中央 溝反折	大径	φ30	3.1	ロクロ	-	内：- 外：-	-	灰白色	-	丸底溝 18C.前 ～中	
J-17	図録10-15	IV層	磁器	中央 溝反折	大径	φ40	14.9	ロクロ	染付 透明釉	内：- 外：草花文	-	白色	-	凹縁溝 18C.前 ～中	

第 31 図 C 区 No.5 トレンチ出土遺物

3 まとめ

C区の確認調査は、No.1～No.5トレンチの5箇所で行った。調査面積は、90㎡である。

遺構確認の結果、No.1・2・5トレンチにおいて遺構が検出された。No.1トレンチでは、7基の遺構が基本層V層上面とVI層上面で検出された。V層・VI層上面は近世の遺構面と考えられ、それに対応する遺構面はNo.2～No.5トレンチにおいても確認され、近世の遺構も検出されている。これらの遺構群には、2時期にわたる検出面および同一検出面における新旧関係が認められること、各トレンチとも近世の遺物が遺構面の上下で出土していることから、C区には、ほぼ全域に近世の遺構が存在し、2時期以上の変遷が考えられる。



第32図 C区全体平面図

表4 C区出土遺物集計表

C区	期別	陶器		弥生		土器		瓦		鉄製物		ガラス		石製		合計	
		点	数量(%)	点	数量(%)	点	数量(%)	点	数量(%)	点	数量(%)	点	数量(%)	点	数量(%)	点	数量(%)
No.1トレンチ	I層	1	4.0	1	44.7									1	2	2	49.3
	V層	2	3.8	1	1.8	1	22.5	4	4,000.0							8	2,824.5
	V・VI層上面	1	5.0							7	822.9					8	827.9
No.2トレンチ	II層										144.3					1	144.3
	III層										63.9					1	63.9
No.3トレンチ	II層	1	2.6													1	2.6
	III層	1	2.4	1	11.7											2	14.1
No.5トレンチ	IV層	6	52.9	2	68.3			1	236.1							9	357.3
	Va層			1	17.0											1	17.0
	Vb層	2	20.5													2	20.5
	VIII層			1	2.1											1	2.1
合計		14	91.8	7	145.6	0	0.0	1	22.5	14	4,083.6	0	0.0	0	0.0	36	4,323.5

Ⅶ. D区の調査成果

1 調査区の設定および基本層序

計画路線の関連工事予定区域に調査区を設定した。

基本層序は盛土および旧表土層をⅠ層、段丘礫層（中町段丘）を基本層Ⅱ層とした。Ⅰ層とⅡ層の間には、遺構埋土が調査区全域に認められる。調査区内には、座標に沿った5mグリッドを設定し、状況に応じてグリッド別に遺物を取り上げた（第34図）。



第33図 D区調査区配置図

2 検出された遺構と遺物

D区の掘削形状は縦7m、横10mの不整六角形で、面積は70㎡である。基本層序の断面図作成は、主に北壁で行った。盛土を除去した後、地表面より0.8m程下で円礫の並びを検出したが、遺構と断定するには至らなかった。下層への掘削を行い、地表面より1.1m程の暗褐色シルト質土上面で遺構確認を行った。その結果、調査区外へも広がる大型の遺構であるSX1を検出した。その後の調査で、SX1は2時期の遺構と考えられたことから、東西ベルトを設定して確認し、SX1AとSX1Bとした。SX1A・1Bの時期は、出土遺物から幕末～明治の可能性が考えられたことから、それらの完掘後、基本層Ⅱ層（段丘礫層）上面で確認された性格不明遺構SX2・3とピット3基の調査を行った。北壁の断面観察においては、遺構の埋土と考えられる層を検出し、SX4・SX5とした。

D区の上出遺物は近世から幕末・明治にかけての磁器・陶器・瓦等総数1,018点である。

(1) SX1A 性格不明遺構 (第34図、図版7-7・8、図版8-3・4)

I層下面で検出された。調査区東半部に広がる大型の遺構である。西側はSX1Bを切る。底面は基本層Ⅱ層（段丘礫層）を掘り込み、遺構の規模は東西5.0m、南北6.0m以上で、調査区外へも広がる。深さは約1.0mである。埋土は円礫を多く含むシルト質土である。また、SX1A①層は別遺構の埋土である可能性も考えられる。遺物は380点出土した。幕末期から明治にかけての陶磁器類が主で、検出遺構の中で最も多い。筒や皿の他に火入や花生、燻徳利や散り蓮華などを含む豊富な品種組成がみられる（第36図-1～4、第37図-1）。遺構の時期は、幕末から明治にかけての可能性が大きい。

(2) SX1B 性格不明遺構 (第34図、図版7-7・8、図版8-1～3)

I層下面で検出された。調査区西半部に広がる大型の遺構である。東側をSX1Aに切られる。遺構の規模は東西6m、南北6m以上で、調査区外へも広がる。深さは約0.5mである。埋土は円礫が多く混入した黒味の強いシルト質土である。遺物は170点出土した。幕末から明治にかけての在地系の陶器、瀬戸美濃系の小碗、櫻鉢や土鍋の破片が多い（第37図-2・3、第38図-1）。遺構の時期は、幕末から明治にかけての可能性が大きい。

(3) SX2 性格不明遺構 (第34・35図、図版7-7・8、図版8-5)

基本層Ⅱ層上面で検出された。遺構の規模は長軸3m、短軸2.3mの不整楕円形である。深さは約0.4mである。埋土は3層からなり円礫が多く混入する黒褐色の砂質シルト土である。遺物は97点出土した。遺物のなかには、細片であるが中国系の五彩手鉢片、17世紀後葉～18世紀前葉の瀬戸美濃系の五寸皿・水滴、在地系の灯明具と思われる土器などがある（第37図-4・5、第38図-2・3）。遺構の時期は、近世の可能性が大きい。

(4) SX3 性格不明遺構 (第34・35図、図版7-7、図版8-6)

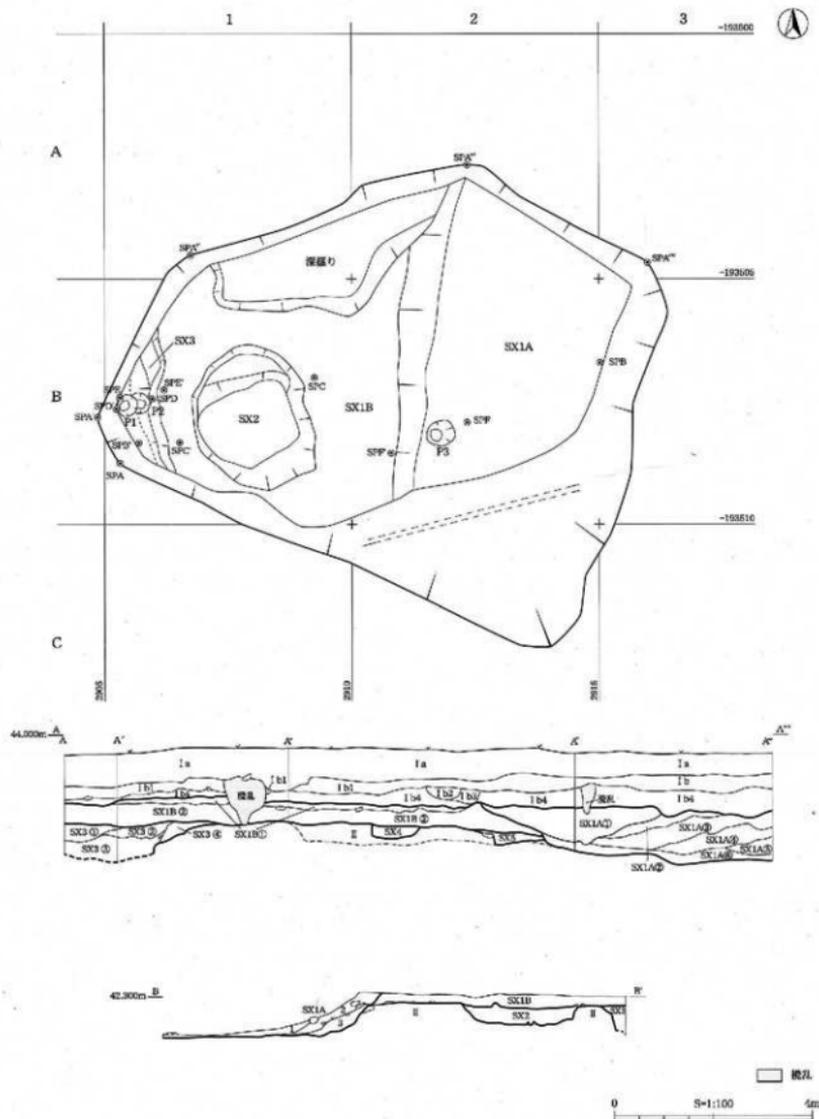
基本層Ⅱ層上面で検出した。遺構の規模は東西1.0m、南北2.0mで調査区西側へ広がる。深さは約1.0m以上で、底面は確認できなかった。埋土は2層で黒褐色のシルト質土である。遺物は2点出土した。在地系の底部に穿孔がある灯明具が出土している。

(5) P1・2ピット (第34・35図)

SX3の埋土上面で検出した。共に上端径0.4m 下端0.2m程で、P1はP2を切っている。遺物の出土はない。

(6) P3ピット (第34・35図、図版7-7、図版8-7)

調査区南中央、SX1Aの底面で検出した。上端径0.5m、下端0.25mで深さ0.7mを測る。木質の遺存する柱痕が確認された。遺物は1点出土した（第38図-4）。これは18世紀～19世紀の焼塀と思われる摺鉢片である。



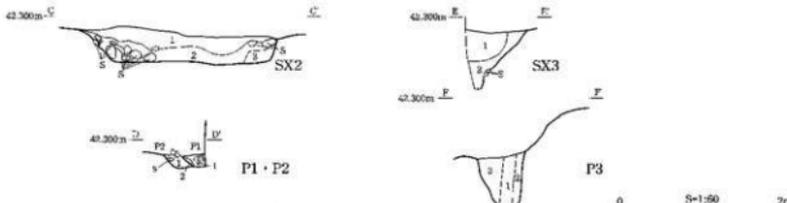
第34図 D区平面図・北壁断面図・東西ベルト断面図

D区 北畠基本層・遺構埋土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
Ia	10YR2/3	黒褐色	シルト	なし	なし	硬土の層。砂礫、砂石を含む。層下部に炭化物を散見し多量含む。
Ib1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	ややあり	厚2~3cmの炭化物を多く含む。厚2~3cmの円礫を多く含む。
Ib2	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	厚5cmの炭褐色ブロック主体の層。レンガの片入。厚2~3cmの炭化物少量含む。
Ib3	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	厚5~10cmの礫を多く含む。厚5~10cmの粘土・炭化物を多く含む。
Ib4	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	厚2~3cmの炭化した土塊を少量含む。厚5~10cmの炭化物を少量含む。
SK1A	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	粘土・炭化物を2~5cmを少量含む。
SK1A	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	厚5~10cmの円礫を多く含む。黒褐色土粒を少量含む。
SK1A	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	厚5cmの円礫を多く含む。粘土・炭化物を多く含む。鉄分を含む。
SK1A	10YR3/2	黒褐色	シルト	ややあり	なし	厚5~10cmの礫を多く含む。黒褐色土シルトブロック厚5cmを多く含む。炭化物と鉄分を多く含む。
SK1A	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	なし	厚10cmの礫を少量含む。黒褐色シルトブロックを少量含む。炭化物・鉄分少量含む。
SK1A	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	厚3~5cmの礫を少量含む。鉄分を少量含む。炭化物を微量含む。
SK1B	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	厚5cmの礫を少量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。黄色味がかった層。
SK1B	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	あり	厚3~5cmの礫を少量含む。灰白色粘上。黄褐色土粒厚5~10cmを少量含む。
SK4	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	厚3~20cmの礫を主体とした層。炭化物少量。基本層目層と顔合し。顔合しているが明らかに異なる層。炭化物を少量含む。
SK3	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	なし	厚3~5cmの円礫を少量含む。黄褐色粘土ブロック厚5~10cmを少量含む。
SK3	10YR2/3	黒褐色	シルト	あり	あり	厚3~5cmの円礫を少量含む。炭化物。灰白色粘上。SK3よりやや明るい。黄褐色粘土ブロック厚5~10cmを少量含む。SK3よりやや明るい。
SK3	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	あり	厚3~5cmの礫を少量含む。粘土・炭化物を少量含む。
SK3	10YR2/3	黒褐色	シルト	ややあり	あり	厚3~5cmの礫を少量含む。炭化物を少量含む。鉄分を多く含む。
II	10YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	厚1~20cmの礫を主体とした層。混入物の少ない段層構成(中野段丘)。
SKG	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	厚2~3cmの礫を少量含む。厚2~3cmの炭・炭化物を多く含む。鉄分を含む。

SK1A・1B 東西ベルト土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
SK1A	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	厚1~2cmの炭化物少量。厚3~5cmの炭分粒を多く含む。厚3~5cmの円礫混入。
SK1A	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	厚1~2cmの炭化物を少量含む。厚3~5cmの円礫を少量含む。
SK1A	10YR2/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	厚1~2cmの炭化物を少量含む。厚3~5cmの円礫を少量含む。灰白色ブロックを多く含む。
SK1B	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	厚2cmの炭化物を少量含む。厚3~5cmの円礫を少量含む。



SX2遺構埋土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
1	10YR2/2	黒褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	厚2~3cmの円礫を少量含む。厚2~3cmの炭化物を少量含む。灰白色シルト厚約1~2cmを少量含む。
2	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	厚3~5cmの円礫を少量含む。炭化物2~3cmを少量含む。灰白色ブロックを多く含む。
3	10YR2/2	黒褐色	粘質シルト	なし	なし	厚5~20cmの円礫を多く含む。鉄分少量含む。

SX3遺構埋土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
1	10YR3/2	粘褐色	砂質シルト	なし	あり	厚3~5cmの円礫を少量含む。粘土・炭化物を微量含む。灰白色土粒厚2~4cmを少量含む。
2	10YR3/2	粘褐色	砂質シルト	なし	あり	厚3~5cmの円礫を少量含む。粘土・炭化物を微量含む。灰白色土粒厚1~2cmを少量含む。

P1遺構埋土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
1	10YR3/3	粘褐色	砂質シルト	ややあり	なし	厚2~3cmの炭褐色シルトブロックを多く含む。厚5cmの礫を含む。炭化物を少量含む。
2	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	厚1~2cmの灰白色シルト粒を少量含む。厚1~2cmの炭化物を微量含む。

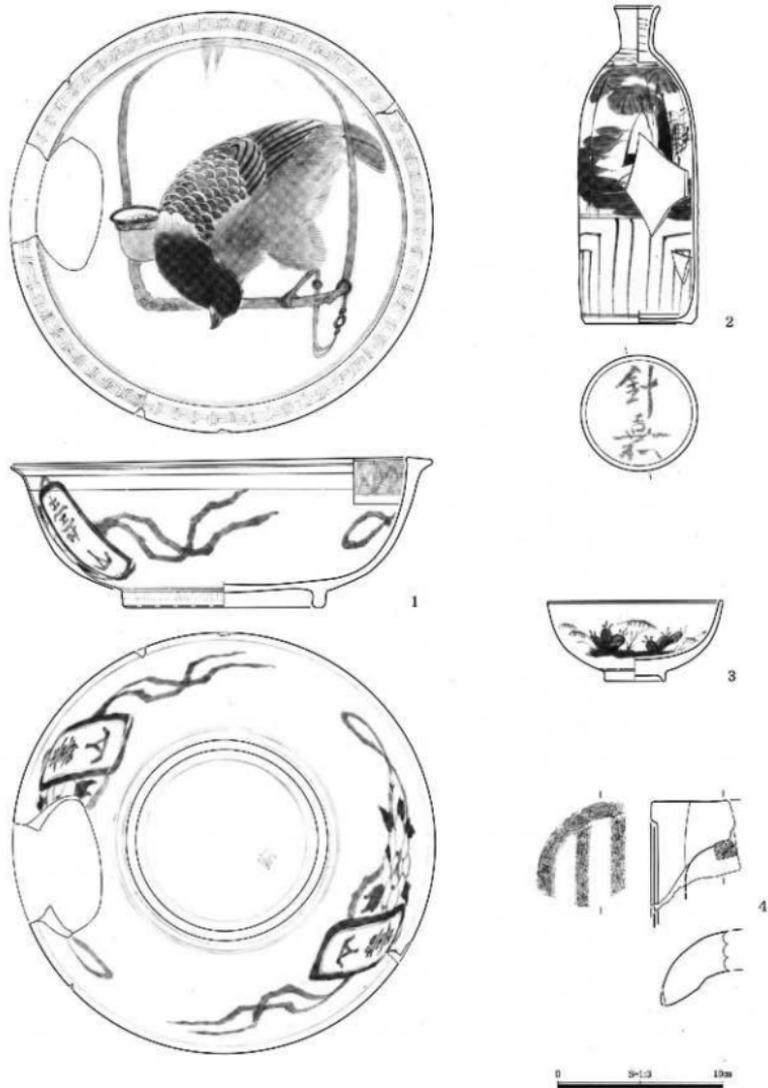
P2遺構埋土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
1	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	厚5cmの礫を含む。厚5~10cmの炭化物少量。灰白色シルト粒少量含む。ピットに2より中しまる。

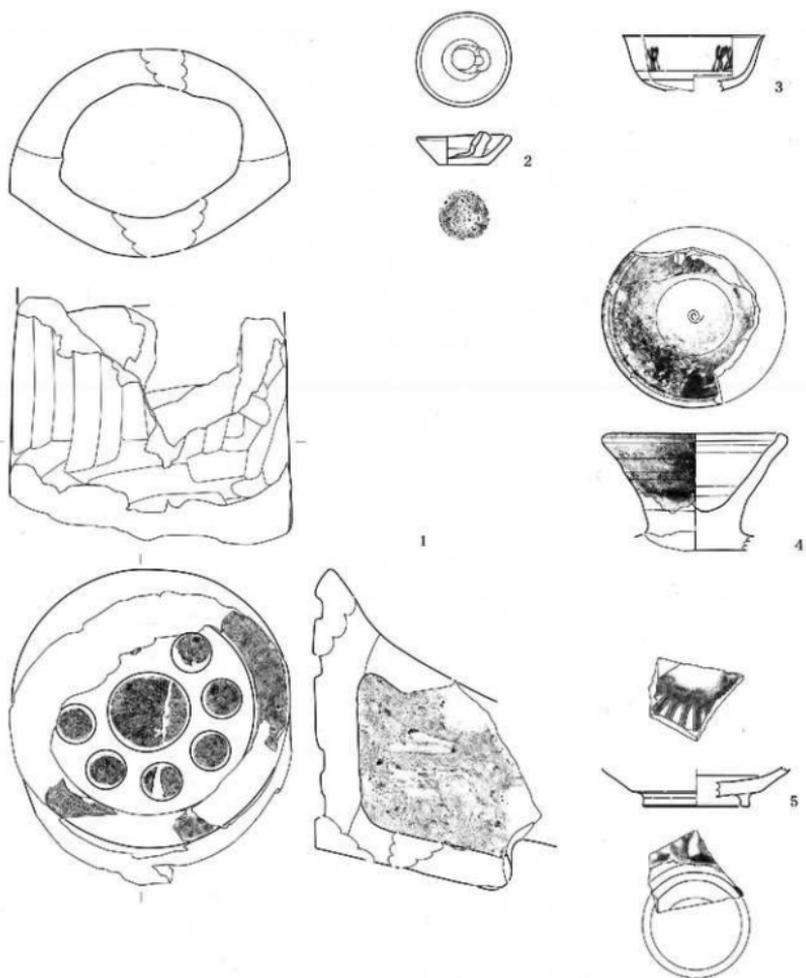
P3遺構埋土層註記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No	土色		粘性	しまり	
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	柱礎・基礎した柱材の層が埋土を造り出す層とする。
2	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	厚5~10cmの円礫を少量含む。厚3~5cmの炭化物を少量含む。灰白色シルト粒を少量含む。

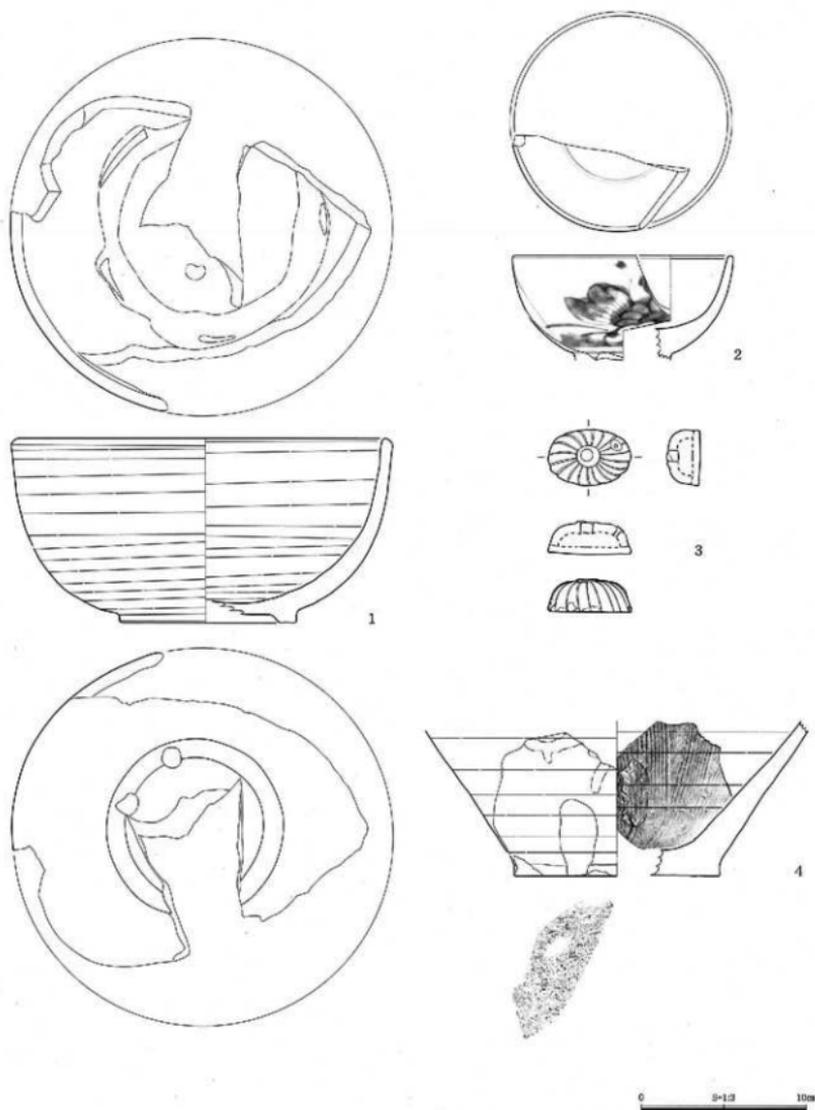
第35図 D区 SX2・SX3・P1~3断面図



第 36 图 D 区出土遗物 (1)



第37图 D区出土物(2)



第38图 D区出土遗物(3)

SX1A 出土 磁器・瓦観察表

発掘時期 発掘地点	調査番号	出土 状況	種類	器種	形状特徴	寸法 (mm)			重量 (g)	成形・調整	装 飾			胎土色	印・銘 点	製作 時期	備考
						口径	器高	底径			絵付/施 文	意匠	意匠特徴				
昭和36- 7-18	昭和10-16	埋土層中	磁器	中鉢	浅口形 底平 底平	256	92	133	1,855.0	口アリ 底平再弁	絵付/施文 内: 乳白部 外: 菊池丹 紅彩華*	緑色 黄とシ	白色	底: 無 底: 無	製法 10C 中 ~19C	19C 中 ~19C 末	群内中 高古 文・内蔵 器
昭和36- 7-19	昭和10-17	埋土層中	磁器	押絵鉢	磁器類	58	106	65	209.1	口アリ ベタ底	内: 底平部	内: 外: 竹枝文	白色	底: 底平	19C 末 ~19C 初	群内中 高古 文・内蔵 器	
昭和36- 7-20	昭和10-18	埋土層中	磁器	中鉢	浅口形 底平 底平	106.5	49.5	36.5	159.1	口アリ 底平再弁	内: 外: 竹枝文	白色	底: 底平	19C 末 ~19C 初	群内中 高古 文・内蔵 器		
昭和36- 7-21	昭和10-20	埋土層中	瓦	平瓦丁	—	—	—	—	—	—	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和37-1 H-1	昭和10-19	埋土層中	瓦	瓦代物 丁	—	—	—	—	—	—	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—

SX1B 出土 磁器・陶器観察表

発掘時期 発掘地点	調査番号	出土 状況	種類	器種	形状特徴	寸法 (mm)			重量 (g)	成形・調整	装 飾			胎土色	印・銘 点	製作 時期	備考
						口径	器高	底径			絵付/施 文	意匠	意匠特徴				
昭和37-2 I-6	昭和11-1	埋土層中	陶器	常盤	磁器 乳白底	58	20	30	28.7	口アリ 底平	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和37-2 J-21	昭和11-2	埋土層中	磁器	小碗	磁器類	68	34.5	—	13.9	口アリ	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和37-2 I-9	昭和11-3	埋土層中	陶器	中鉢	瓦丁	232	118	108	662.0	口アリ 底平再弁	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—

SX2 出土 磁器・陶器・土器観察表

発掘時期 発掘地点	調査番号	出土 状況	種類	器種	形状特徴	寸法 (mm)			重量 (g)	成形・調整	装 飾			胎土色	印・銘 点	製作 時期	備考
						口径	器高	底径			絵付/施 文	意匠	意匠特徴				
昭和37-4 I-10	昭和11-4	埋土層中	土器	打割小 鉢	瓦丁形 底平	112	71.5	—	265.8	口アリ ベタ底	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和37-4 J-11	昭和11-4	埋土層中	陶器	高古 鉢	瓦丁形 底平	112	71.5	—	265.8	口アリ ベタ底	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和37-4 J-22	昭和11-5	埋土層中	磁器	大碗	高古 底平	130	84	—	118.7	口アリ 底平再弁	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和38-0 I-12	昭和11-7	埋土層中	陶器	水筒	高古 底平	50.5	20.5	—	29.8	口アリ 底平再弁	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—
昭和38-0 I-23	昭和11-8	埋土層中	磁器	中鉢	浅口形 底平 底平	103	30	—	37	口アリ 底平再弁	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	—

P3 出土 陶器観察表

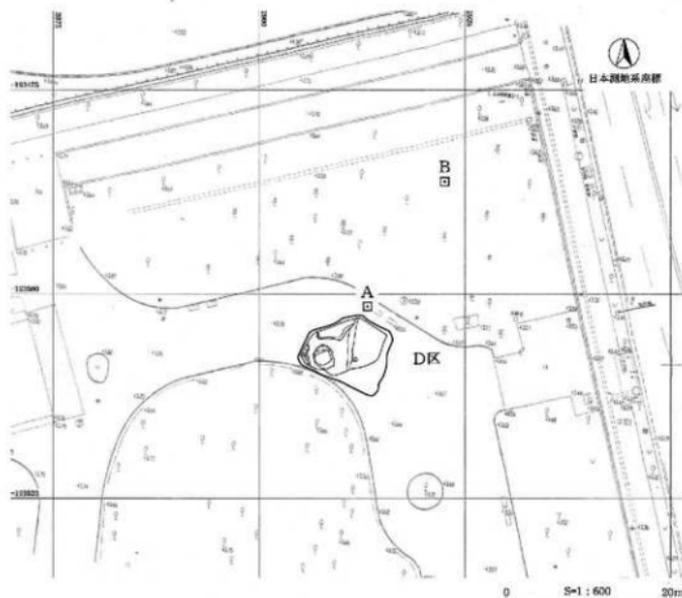
発掘時期 発掘地点	調査番号	出土 状況	種類	器種	形状特徴	寸法 (mm)			重量 (g)	成形・調整	装 飾			胎土色	印・銘 点	製作 時期	備考
						口径	器高	底径			絵付/施 文	意匠	意匠特徴				
昭和38-4 I-13	昭和11-9	埋土層中	陶器	深鉢	ベタ底	60	—	—	212.7	口アリ 底平再弁	内: 外: 上: 乳白部 下: 紅彩華*	—	—	—	—	—	群内中 高古 文・内蔵 器

3 まとめ

D区の試掘調査は、1箇所において行った。調査面積は70㎡である。

遺構確認の結果、遺構は7基検出された。遺物は1,018点出土した。

検出された遺構は、新旧関係から5時期にわたる。それらの時期は、I層下面で検出されたSX1A・1Bは幕末から明治にかけての時期、II層上面で検出されたSX2は近世の可能性も考えられたが、SX3・P1・2・3の時期は不明である。出土遺物は近世から明治にかけて多数出土しており、調査区周辺には近世の遺構が存在する可能性があるが、調査面積が狭いこともあり、今後の課題とされる。



第39図 D区全区平面図

表5 D区出土遺物集計表

D 区	階層	総計		陶器		土器		瓦		鉄製品		ガラス		石類		合計			
		点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)	点	重量(g)				
基本層	I層	189	3,543.3	86	6,349.9	1	59.0		86	24,286.0		1	59.2		363	34,296.4			
	2層			1	313.7										1	313.7			
P3																			
SX1A		250	4,240.8	49	2,787.6			4	272.1	37	13,193.5	3	1,466.5	6	94.7	349	22,055.2		
	SX1A①										1	1,512.0			1	1,512.0			
	SX1A②	19	76.6	6	22.7					6	1,302.2	2	5.1		30	1,406.6			
SX1B		40	309.5	37	1,013.2			7	199.5	48	5,160.7			1	11.8	133	9,694.7		
	SX1B①	7	46.9	16	848.2			2	296.7	10	2,317.2			1	97.6	36	3,608.5		
	SX1B②			1	87.1										1	87.1			
	SX1B③																		
SX2				3	12.8										3	12.8			
	1層	10	45.6	7	98.3			2	56.5	1	71.9				20	241.5			
	2層			2	47.9			1	7.9	7	1,451.2				10	1,377.0			
	3層	10	288.8	28	1,067.2	2	399.3	4	374.9	22	3,943.6				64	6,073.8			
SX3																			
	SX3①									1	139.4				1	132.4			
	SX3②														1	22.6			
	SX3③																		
遺構外																			
	埋蔵	2	15.8	1	9.6			1	18.2			1	5.2		4	5.2			
合計		624	9,697.5	235	12,628.2	3	458.3	22	1,247.4	219	56,239.7	4	1,471.7	9	159.0	2	109.3	1,018	80,881.1

VIII. 総括

この調査は、高速鉄道東西線建設事業に伴う確認・試掘調査として、仙台城跡およびその隣接地、川内A遺跡他を対象として行った。調査区はA～D区の4箇所を設定し、野外調査は平成16年6月14日から9月17日に行った。調査面積は448㎡である。

1 各区の検出遺構および出土遺物

A区（仮称国際センター駅部：川内A遺跡）

No.1～No.6トレンチにおいて調査を行い、近世の遺構面を検出した。遺構は井戸跡1基、土坑2基、性格不明遺構6基、ピット8基が検出された。遺物の出土総数は170点であり、陶磁器など年代は17世紀～19世紀を主とする。調査区周辺には近世の遺構が展開していることが考えられる。また、縄文土器が出土したことから、縄文時代の遺構が存在する可能性もある。

B区（扇坂トンネル部：仙台城跡隣接地）

No.1～No.6トレンチにおいて調査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物の出土総数は5点である。

C区（亀岡トンネル部：仙台城跡）

No.1～No.5トレンチにおいて調査を行い、近世の遺構面を検出した。遺構は性格不明遺構7基、土坑1基、ピット7基が検出された。遺物の出土総数は36点であり、陶磁器などの年代は17世紀～19世紀を主とする。調査区周辺には近世の遺構が展開していることが考えられる。

D区（仮称西公園駅部隣接地）

調査区は1箇所を設定した。遺構は性格不明遺構4基、ピット3基が検出された。遺物の出土総数は1,018点である。陶磁器などの時期は近世～明治にかけてである。調査区周辺には近世の遺構が存在する可能性はあるが、調査面積が狭いこともあり、今後の課題とされる。

2 遺構の検出面と時期

調査の結果、4箇所の調査区のうち、A区とC区には近世の遺構面が確認され、検出された遺構から、周辺にこの時間の遺構の展開が考えられた。B区では遺構は確認されなかった。D区では明確な近世の遺構は確認されていない。

表6 確認遺構数集計表

調査区	A区						B区					C区					D区	合計			
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.1	No.2	No.3	No.4			No.5		
SK	2												1							3	
SX	3			1	2									3					4	4	17
SE					1																1
P		2	3	3									3	4						3	18
合計	5	2	4	6									7	4					4	7	39

註

- (1) 松本秀明 2001 『地形から街を読むー地形分類のみかたー』『仙台空中写真集ー社の都のいま、むかし』
仙台市環境局
- (2) 今野印刷 1994 『絵図・地図で見る仙台』に加筆
- (3) 藤沢教氏(東北大学埋蔵文化財調査研究センター)のご教示による。なお、藤沢氏には他のトレンチにおいても近世の遺構面について、ご教示いただいた。
- (4) 註(3)に同じ

参考文献

- 仙台市教育委員会 2002 『仙台城跡 1ー平成 13 年度調査報告書ー』(仙台市文化財調査報告書 259 集)
- 仙台市教育委員会 2003 『仙台城跡 2ー平成 14 年度調査報告書ー』(仙台市文化財調査報告書 264 集)
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 3ー平成 15 年度調査報告書ー』(仙台市文化財調査報告書 270 集)
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 4ー平成 15 年度調査報告書ー』(仙台市文化財調査報告書 271 集)
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報 4・5』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報 8』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大学埋蔵文化財調査年報 11』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』
- 仙台市博物館 2002 『仙台市博物館調査研究報告 第 22 号 平成 13 年度』
- 九州近世陶磁器学会編 2002 『九州近世陶磁器学会 10 周年記念九州陶磁の編年』
- 多治見市教育委員会 1993 『美濃窯の焼 特集写真で見る美濃焼の歴史』
- 東北陶磁文化館 1987 『東北の近世陶磁』
- 矢部良明ほか編 2002 『角川日本陶磁大辞典』 角川書店

写 真 图 版



1. A区 着手前（西より）



2. A区 No.1トレンチ葺層上面遺構検出状況（南より）



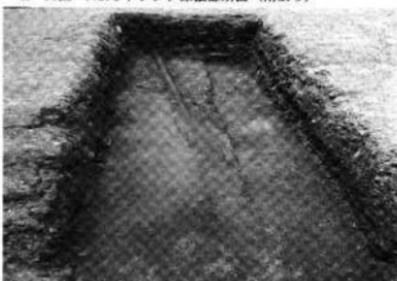
3. A区 No.1トレンチ東壁断面（西より）



4. A区 No.1トレンチ深掘部断面（南より）



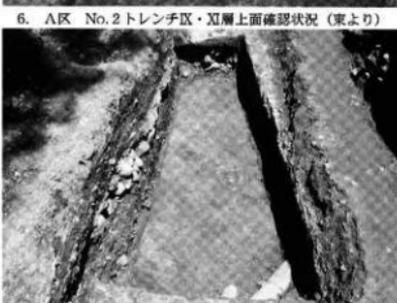
5. A区 No.1トレンチSK1石器出土状況



6. A区 No.2トレンチ区・刈層上面確認状況（東より）

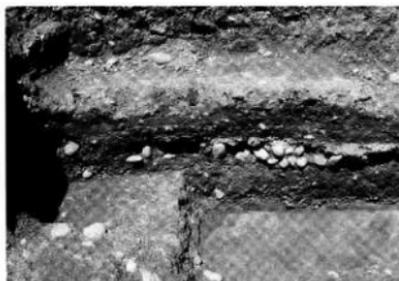


7. A区 No.2トレンチ北壁断面（南より）



8. A区 No.3トレンチ葺層上面遺構検出状況（南より）

図版1 A区(1)



1. A区 No.3トレンチ西壁断面(東より)



2. A区 No.3トレンチ西壁断面(東より)



3. A区 No.4トレンチ西壁断面(東より)



4. A区 No.4トレンチ西壁断面(東より)



5. A区 No.4トレンチⅡ層上面遺構検出状況(南より)



6. A区 No.5トレンチⅫ・ⅩⅤ層上面遺構検出状況(東より)

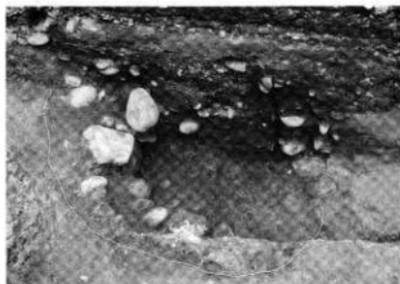


7. A区 No.5トレンチ北壁断面(南より)



8. A区 No.5トレンチ北壁断面(南より)

図版2 A区(2)



1. A区 No.5トレンチSE1検出状況(南より)



2. A区 No.5トレンチP1~3・SX2遺構検出状況(西より)



3. A区 No.6トレンチV層上面確認状況(南より)



4. A区 No.6トレンチ東壁断面(西より)



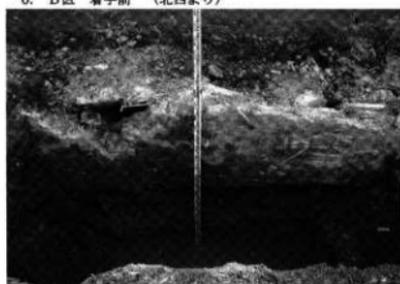
5. A区 完了(西より)



6. B区 着手前(北西より)

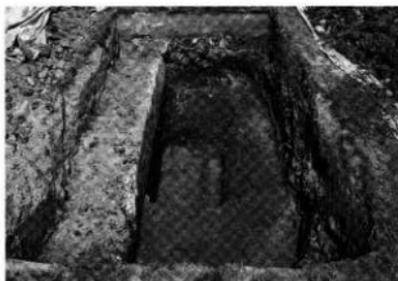


7. B区 No.1トレンチV層上面確認状況(南東より)



8. B区 No.1トレンチ南壁断面(北より)

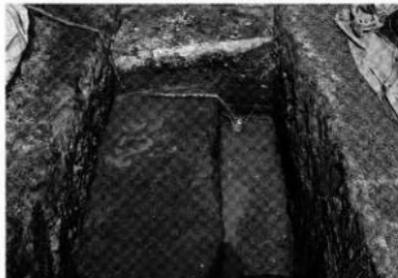
図版3 A区(3)・B区(1)



1. B区 No.2トレンチⅡ・Ⅵ層上面確認状況(南東より)



2. B区 No.2トレンチ南壁断面(北より)



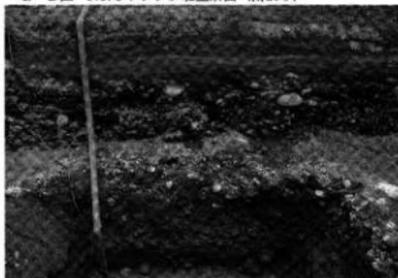
3. B区 No.3トレンチⅡ・Ⅴ層上面確認状況(南東より)



4. B区 No.3トレンチ北壁断面(南より)



5. B区 No.4トレンチⅡ・Ⅴ層上面確認状況(南東より)



6. B区 No.4トレンチ北壁断面(北より)



7. B区 No.5トレンチⅡ・Ⅴ・Ⅵ層上面確認状況(南東より)



8. B区 No.5トレンチ東壁断面状況(西より)

図版4 B区(2)



1. B区 No.6トレンチⅡa・Ⅱd層上面確認状況(北西より)



2. B区 No.6トレンチ東壁断面(西より)



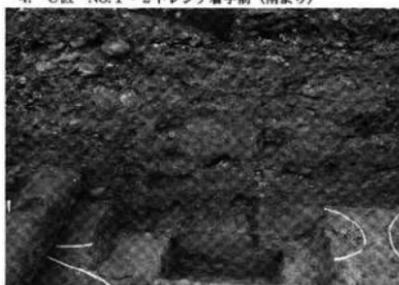
3. B区 完了(北西より)



4. C区 No.1・2トレンチ着手前(南より)



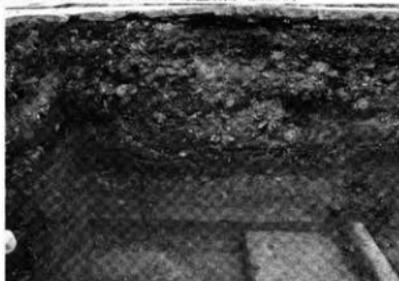
5. C区 No.1トレンチV・VI層上面遺構検出状況(北西より)



6. C区 No.1トレンチ東壁断面(西より)



7. C区 No.2トレンチV・VI層上面遺構検出状況(北東より)

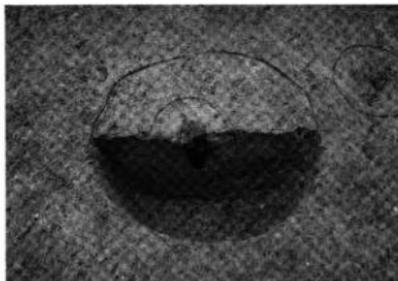


8. C区 No.2トレンチ北壁断面(南より)

図版5 B区(3)・C区(1)



1. C区 No.2トレンチP1~4遺構検出状況(南西より)



2. C区 No.2トレンチP1土層断面(東より)



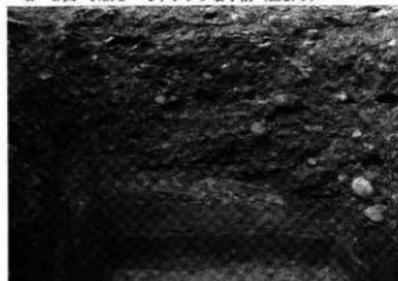
3. C区 No.2トレンチ完了(北より)



4. C区 No.3・4トレンチ着手前(西より)



5. C区 No.3トレンチⅢ・Ⅳ・Ⅴ層上面確認状況(北東より)



6. C区 No.3トレンチ西壁断面(東より)



7. C区 No.4トレンチⅢ・Ⅳ・Ⅴ層上面確認状況(南西より)



8. C区 No.4トレンチ西壁断面(東より)

図版6 C区(2)



1. C区 No.3・4トレンチ完了(南西より)



2. C区 No.5トレンチ着手前(北東より)



3. C区 No.5トレンチⅦ・Ⅷ層上面遺構検出状況(北東より)



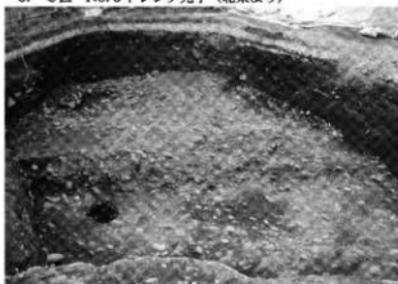
4. C区 No.5トレンチ北壁断面(南より)



5. C区 No.5トレンチ完了(北東より)



6. D区 着手前(西より)



7. D区 完掘状況(東より)



8. D区 完掘状況(西より)

図版7 C区(3)・D区(1)



1. D区 土層断面1 (東より)



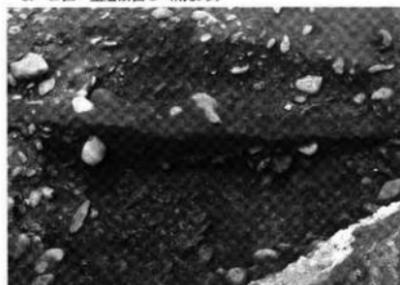
2. D区 土層断面2 (南より)



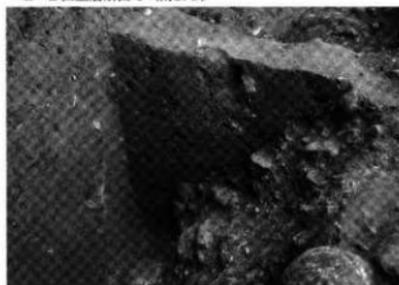
3. D区 土層断面3 (南より)



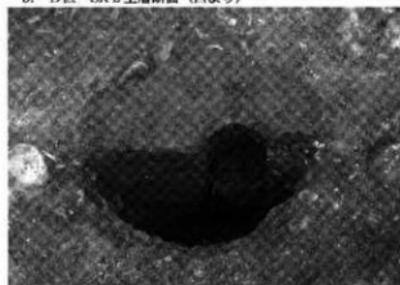
4. D区土層断面4 (南より)



5. D区 SX2土層断面 (西より)



6. D区 SX3 土層断面 (南より)

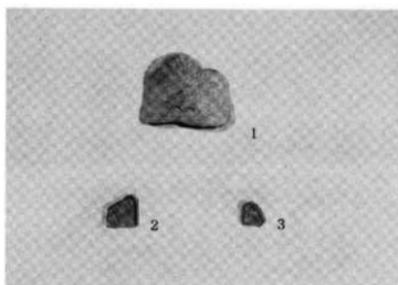


7. D区 P3土層断面 (西より)

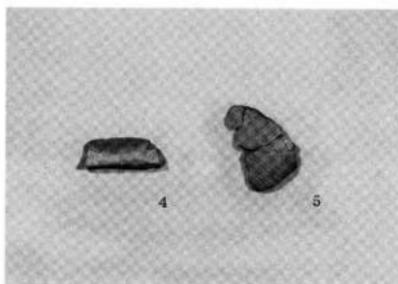


8. D区 完了 (西より)

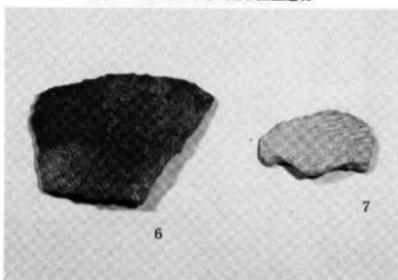
図版8 D区 (2)



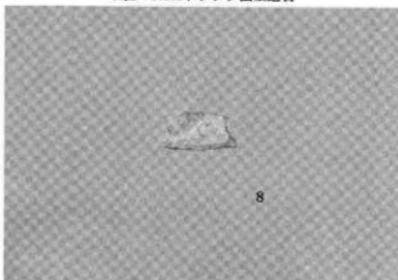
AEK No.1トレンチ SX1出土遺物



AEK No.1トレンチ出土遺物



AEK No.1トレンチ出土遺物



AEK No.1トレンチ SK1出土遺物



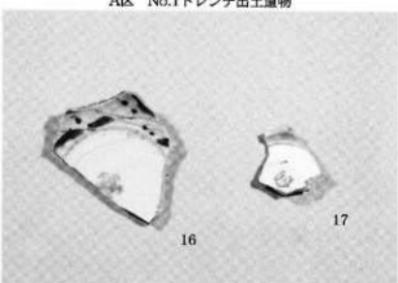
AEK No.1トレンチ出土遺物



AEK No.1トレンチ出土遺物

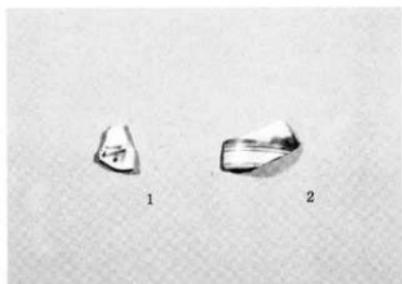


AEK No.3トレンチ出土遺物 12・13・14
AEK No.4トレンチ出土遺物 15

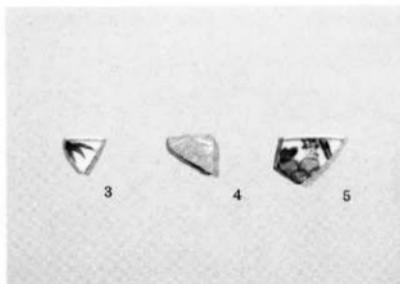


AEK No.5トレンチ SE1出土遺物 16
No.5トレンチ出土遺物 17

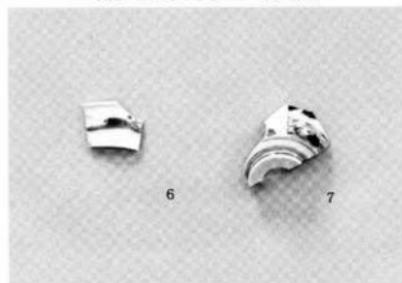
図版9 A区出土遺物



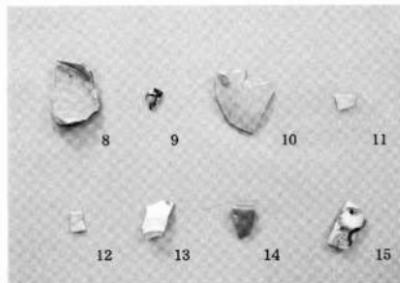
AK No.5トレンチ SX1出土遺物



CK No.1トレンチ 出土遺物



CK No.5トレンチ 出土遺物



CK No.5トレンチ 出土遺物



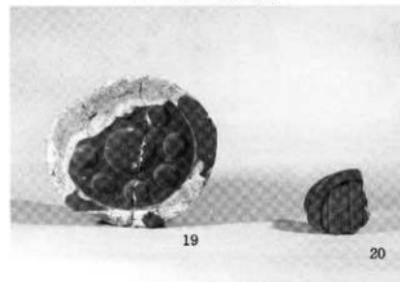
DK SX1A 出土遺物



DK SX1A 出土遺物



DK SX1A 出土遺物



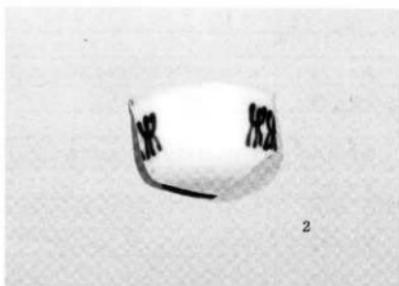
DK SX1A 出土遺物

図版10 A区・C区・D区出土遺物



1

D区 SX1B 出土遺物



2

D区 SX1B 出土遺物



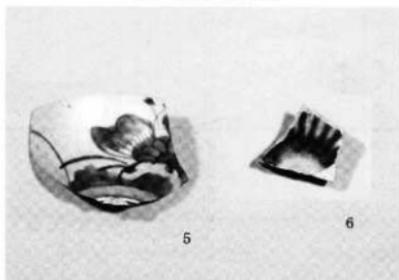
3

D区 SX1B 出土遺物



4

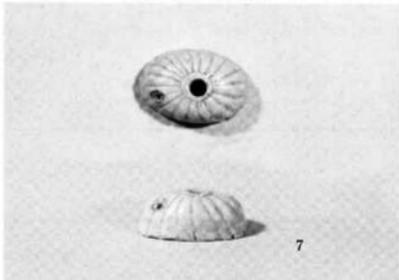
D区 SX2 出土遺物



5

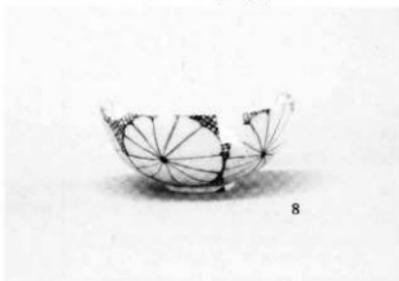
6

D区 SX2 出土遺物



7

D区 SX2 出土遺物



8

D区 SX2 出土遺物



9

D区 P3 出土遺物

図版11 D区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	せんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいせいせきはつつちようさ(1)がいようほうこくしょ							
書名	仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第289集							
編集者名	斎野裕彦・並谷正信・北原正範							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TR022 (214) 8893~8894							
発行年月日	2005年1月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市区町村	遺跡番号					
かわうちえーいせき 川内A遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくあおばくやまうちない 青葉区青葉山地区内	04100	宮城県 01558	38° 15′ 37″	140° 51′ 25″	発掘調査 2004.6.14 ~2004.9.17	448㎡	仙台市高速鉄道 東西線建設に 伴う確認・試掘 調査
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわうちちない 青葉区川内地区内		宮城県 01033	38° 15′ 36″	140° 50′ 54″			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
かわうちえーいせき 川内A遺跡	散布地 その他の遺跡	縄文時代 江戸時代	井・土坑 ビット	縄文土器 近世陶磁器 瓦		平成16年7月に遺跡登録		
せんだいじょうあと 仙台城跡	城館跡	江戸時代	土坑・ビット 性格不明遺構	近世陶磁器 瓦				

仙台市文化財調査報告書289集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書

2005年1月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
文化財課 022 (214) 8893~8894

印刷 佐伯印刷株式会社
本社 大分県大分市古国府1155-1
事業部 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5
代々木シティーホームズ1101号

R70

宮城県立中央図書館蔵書

